

国語表現

教 科	国語	単位数	2	学科・学年	全科2年
使用教科書	国語表現(大修館書店)				
副教材等	五訂版 常用漢字オールクリア(尚文出版)、進路マップマナトレ(Benesse)				

「国語表現」の到達目標

- (1) 国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を養う。
- (2) 「書くこと」において、自分の思いや考えを明確にし、表現のしかたや構成、展開を工夫する力、「話すこと・聞くこと」において、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫する力、視点を明確にして聞きながら、話の内容に対する共感を伝えたり、相手の思いや考えを引き出したりする工夫する力を養う。
- (3) 表記の決まりを意識し、正しく書こうとする態度、わかりやすく正確に文章で説明しようとする態度説得力を高めた小論文を書こうとする態度を養う。

1. 評価の観点の趣旨と方法

	知識・技能(技術)	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けができる。 ・自分の思いや考えを多彩に表現するための必要な語句の量を増やし、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 	<p style="text-align: center;">【話すこと・聞くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的や場に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決め、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討することができる。 ・相手の反応に応じて言葉を選んだり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫することができる。 <p style="text-align: center;">【書くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的や意図に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から適切な題材を決め、情報の組み合わせなどを工夫して、伝えたいことを明確にすることができる。 ・自分の思いや考えを明確にし、事象を的確に描写したり説明したりするなど、表現の仕方を工夫することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや考えを多彩に表現するための語句や表現を身につけることに対し、粘り強く取り組んでいる。 ・自分の思いや考えを適切かつ分かりやすく伝えるために、表現や言葉遣いを調整しようとしている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・年5回の定期考査 ・長期休業中に出题される課題及び休業あけの宿題テスト ・漢字の小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・年5回の定期考査 ・長期休業中に出题される課題及び休業あけの宿題テスト ・グループ討論 ・全体発表 ・ワークシートの記述内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内での取り組み状況 ・ワークシートの記述内容 ・課題等の提出状況

2. 評価の規準（及び年間の評定）

内容のまとめり (単元)	知識・技能(技術)	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
<p>1 言葉と出会う</p> <p>①言葉と表記</p> <p>②整った文を書く</p> <p>③相手に応じた言葉遣い</p> <p>④わかりやすい文を書く</p> <p>⑤文のつなぎ方</p>	<p>・言葉には、自己と他者の相互理解を深める働きがあることを理解し、言葉や表記の大切さを理解している。</p> <p>・自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増やし、適切な言葉遣いや表記に関する知識を広げ、語感を磨き、語彙を豊かにしている。</p> <p>・書き言葉の特徴について理解を深め、係り受けを整えたり文末表現を統一したりすることについて理解している。</p> <p>・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けている。</p> <p>・書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や手段に応じた適切でわかりやすい文を書く方法を理解している。</p> <p>・自分の思いや考えを多彩に表現するために、接続表現の種類や働きを知り、文章の中で適切に用いている。</p>	<p>・自分の思いや考えを明確にし、事象を的確に描写したり説明したりするための言葉と表記を正確に判断して、表現のしかたを工夫している。</p> <p>・伝えたいことを明確に伝えるために、係り受けや文末表現の統一に留意し、表現のしかたを工夫している。</p> <p>・自分の思いや考えを明確にし、事象を的確に描写したり説明したりするために、相手に応じた言葉遣いを正確に判断して、表現のしかたを工夫している。</p> <p>・長すぎる文やあいまいな文を避け、読点を適切に用いるなど、表現のしかたを工夫している。</p> <p>・自分が書いた文や文章が、読み手にわかりやすく伝わるかどうかを吟味し、表現全体を整えたり、読点の打ち方を工夫したりしている。</p> <p>・読み手に対して自分の思いや考えが効果的に伝わるように、接続表現の使い方を吟味し、文章全体を整えている。</p>	<p>・正しい表記や語彙を豊かにすることについて積極的に取り組もうとしている。</p> <p>・係り受けを整えたり文末表現を統一したりする学習に積極的に取り組もうとしている。</p> <p>・相手に応じて適切な言葉を使い分けることに積極的に取り組もうとしている。</p> <p>・わかりやすい文を書くことに意欲をもち、積極的に学習に取り組んでいる。</p> <p>・接続表現を適切に用いることに意欲をもち、積極的に学習に取り組んでいる。</p>

<p>5 メディアを駆使する ①ネットを活用した情報収集</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを活用して、質の高い情報を集める方法を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や場に応じて、実社会の問題や自分に関わることから話題を決め、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を収集するために、適切な言葉を粘り強く探そうとしている。
<p>6 会話・議論・発表 ①建設的な議論の進め方 ②プレゼンテーションの工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けることができる。 ・伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・論点を明確にして自分の考えと比較しながら聞き、聞き取った情報を吟味して自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・話し合いの目的に応じて議論をし、話し合いのしかたや結論の出し方について工夫したり、批評したりしている。 ・目的や場に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決め、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。 ・相手の反応に応じて言葉を選んだり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫している。 ・設定した題材について調べたことを、図表や画像なども用いながら発表資料にまとめ、聴衆に対して説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・建設的な議論になるように、話し方、聞き方、結論の出し方を工夫しようとしている。 ・プレゼンテーションをすることに意欲をもち、積極的に活動に取り組もうとしている。
<p>③アサーション入門</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アサーションとはどのようなものかを理解する。 ・怒りの正体を分析し、理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の「本心」に気づき、それを適切に言葉で表現する。 ・怒りを適切に表現する方法を身につける。 ・自分の気持ちも相手の気持ちも尊重しながら、率直にコミュニケーションができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アサーションに関心をもち、自己分析・表現を意欲的に行おうとしている。
<p>1年間の評価は、1、2、3学期の年間を通じて、「思考・判断・表現」を重視し総合的に判断して決定します。</p>			

3. 学習の計画と評価の観点

学期	月	学習内容	学習のねらい	評価の観点			調査範囲
				知・技	思・判・表	主	
1 学期	4 5	6 会話・議論・発表 「建設的な議論の進め方」	・話し合いのステップを意識しながら話し合いに参加し、建設的な議論になるように協力し合う。 ・話し合いに積極的に参加し、結論を出すために貢献する。 ・他者の意見を尊重しつつ自分の意見を適切に述べる。	○	○	○	中間 調査
	5 6	5 メディアを駆使する 「ネットを活用した情報収集」	・インターネットを活用して、質の高い情報を集める方法を身につける。	○	○	○	期末 調査
	6 7	6 会話・議論・発表 「プレゼンテーションの工夫」	・文字や映像、音声を使って情報を効果的に伝える方法を学び、聞き手に伝わりやすいよう、言葉や表記を工夫しながらスライドを作成する。	○	○	○	
2 学期	8 9	6 会話・議論・発表 「プレゼンテーションの工夫」	・文字や映像、音声を使って情報を効果的に伝える方法を学び、聞き手の心を動かすような発表の工夫をする。	○	○	○	期末 調査
	9 10	6 会話・議論・発表 「アサーション入門」	・自分の思いや考えを適切に表現し、他者と円滑にコミュニケーションを図る。	○	○	○	
	11	1 言葉と出会う 「言葉と表記」	・表記の決まりを意識し、正しく書く。 ・漢字や慣用表現を正しく使う。	○	○	○	学年 末調査
	12	1 言葉と出会う 「整った文を書く」	・係り受けについて理解する。 ・文末表現の統一について理解する。	○	○	○	
3 学期	1	1 言葉と出会う 「相手に応じた言葉遣い」	・話し言葉と書き言葉、敬語について理解し、相手や場面によって適切な言葉を使い分けができる。	○	○	○	学年 末調査
	2	1 言葉と出会う 「わかりやすい文を書く」 「文のつながり」	・長すぎる文を避け、わかりやすい文にする方法を理解する。 ・読点を適切に打ち、あいまいな文を避けることの大切さを理解する。 ・接続表現の種類と働きを理解する。 ・文脈による文のつながりを理解する。	○	○	○	

地理総合

教 科	地理歴史	単位数	2	学科・学年	2年全科
使用教科書	『高等学校 地理総合 世界を学び、地域をつくる』（第一学習社） 『新詳高等地図』（帝国書院）				
副教材等					

「 地理総合 」の到達目標は

- | |
|--|
| <p>(1) 世界の地理的事象について、地図や資料を正しく読み取る技能を身に付ける。</p> <p>(2) グローカル化の中で起こっている諸課題について分析、考察する力をつける。</p> <p>(3) (1)(2)を踏まえ、解決すべき課題を設定し、その課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての重要な資質・態度を深める。</p> |
|--|

1. 評価の観点の趣旨と方法

	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> • 世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深めている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> • 年5回の定期考査 • レポート • 授業プリント 	<ul style="list-style-type: none"> • 年5回の定期考査 • レポート • 課題プリント • 成果物 	<ul style="list-style-type: none"> • 授業プリントの提出状況とその内容 • グループ学習における発表内容と合意形成への意欲 • レポートの提出状況とその内容 • 課題プリントの提出状況とその内容 • 自己評価表による振り返り

2. 評価の規準（及び年間の評定）

内容のまとめ(単元)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1編 1章 地図や地理情報システムと現代世界 1節 球面上の世界と地図	<ul style="list-style-type: none"> 緯度と経度による世界の位置や2地点における時差を正しく表すことができる。 一般図と主題図、様々な統計地図の特徴や利用目的を十分理解できる。 地理情報システムの特徴について十分に理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 季節の変化や日中時間の変化を考察し、説明できる。 時差が原因で生じる現代社会の結びつきを考察できる。 地図投影法を理解し、目的に応じて最適な地図を選択できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 時差の算出や統計地図の読み方、読図の方法などについて理解しようとする姿勢が見られる。 地図やGISの有用性について理解し、自らの生活の中で活用しようとする姿勢が見られる。
2節 国家の結びつきとグローバル化する社会	<ul style="list-style-type: none"> 国家の三要素と領域の範囲を理解できる。 日本の領域と排他的経済水域の範囲について理解できる。 国家間の結びつきについて、各国の関係や組織の目的を整理し、理解できる。 明治以降から現代までの、日本の貿易を取りまく環境と変化について理解できる。 交通の特徴と発達の過程について理解できる。 日本を含むグローバル化について、人・モノ・資本の移動が活発化していることを、様々な事例を通して理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 国境が人々の生活に与える影響について、多面的・多角的に考察し、説明することができる。 日本が抱える領土問題を把握し、解決に向けた考察を深めることができる。 交通機関や情報・通信、物流の発達が人々の生活に与えた影響を考察し、これから見込まれる生活の変化を展望できる。 グローバル化のメリットとデメリットについて多面的・多角的に考察し説明できる。 日本人海外旅行者数と訪日外国人旅行者数の推移について、時代背景を踏まえながらその要因について多面的・多角的に考察し説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の位置や抱える領土問題について、世界地図を活用して、地理的な視点からとらえようとする姿勢が見られる。 現代世界の様々な結びつきについて、世界地図などを活用して、地理的な視点からとらえようとする姿勢が見られる。 ワークに取り組み、ASEANやEUの歩みや特徴、抱える課題について理解しようとする姿勢が見られる。 グローバル化の下で、自らの生活が今後どのように変化し、どのような変化が起こり得るか、主体的に考察しようとする姿勢が見られる。

<p>第2編 国際理解と国際協力 1章 生活・文化の多様性と国際理解</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 地理的環境について理解し、教科書の写真から各地の地理的環境を読み解くことができる。 • 世界の気候は、緯度や高度、大気の大循環、海流など様々な気候因子が複合し、影響し合っていることを理解している。 • ケッペンの気候区分の各気候区の分布と特徴を理解している。 • 世界の様々な伝統的衣類は、各地の自然環境や生活習慣などが反映されていることを理解している。 • 世界各地にはその土地の地理的環境に応じた様々な主食や食べ方などがあり、食の多様性に富んでいることを理解している。 • 世界の人々の住居について、立地や素材、生業と住居の関係性などを、各地の地理的環境とのかかわりを踏まえて理解している。 • 産業の発展の歴史について理解している。 • 世界の主な宗教について、その分布や特徴を理解している。 • 世界の様々な言語について、その分布や宗教とのかかわり、歴史的経緯などを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> • 複数の写真を比較して、それぞれの土地の地理的環境の共通点や相違点に気づき、ことばで表現することができる。 • 人間生活と気候との関係性について、農業生産や生活様式など様々な視点から考察し、説明することができる。 • 衣服は、特定の地域・民族・職業・階層などへの帰属をあらわす社会的な役割があり、本来の自己表現と対立する側面があることについて、多面的・多角的に考察することができる。 • 茶・ジャガイモ・トウガラシなど食べ物の伝播の歴史を理解し、各地の自然環境や歴史的経緯に基づいた農業の地域性の特徴について考察し、説明することができる。 • 社会の変化とともに住居や住み方が変化してきたことを多面的・多角的に考察し、説明することができる。 • 産業の発展によって生活がどのように変化してきたか、多面的・多角的に考察し、説明することができる。 • 各宗教の特徴を踏まえ、それぞれの宗教を信仰する世界の人々との交流に際して気をつけなければならないことを考察し、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 写真から地理的環境を読み解く作業に、積極的に取り組むことができる。 • 持続可能な社会の実現に向けた視点を踏まえ、グローバル化にもなって変化していく衣食住や起こり得る課題に対してどうかかわっていくべきか、主体的に考察しようとする姿勢が見られる。 • 世界の多様な生活・文化に触れる中で、自らの生活・文化との共通点や相違点に着目し、互いの文化を理解し尊重しようとする姿勢が見られる。 • ワーク⑦をグループで取り組む中で、他者の意見を聞き、自らの意見との違いに気づくことで考察を深め、よりよい結論を見出そうとする姿勢が見られる。
<p>第2編 国際理解と国際協力 2章 地球的課題と国際協力 1節 持続可能な「社会を目指して</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 持続可能な開発目標（SDGs）の理念や、17の目標の内容を理解している。 • 地球的課題は先進国と発展途上国では対照的なかたちであらわ 	<ul style="list-style-type: none"> • 持続可能な社会の実現に向けて、私たち1人ひとりができることを考察し、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 地球的課題への理解を深め、現代社会のあり方を持続可能性の観点から主体的に考えようとする姿勢が十分に見られる。

	<p>れ、また各地球的課題は相互に絡み合い、経済のしくみに左右されていることを理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 地球的課題について、グローバルな視点と地域的な視点から考察し、また各課題の背景にまで視野を広げる必要があることを理解している。 		
<p>2節 すべての人々の尊厳と平等が守られた社会に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 発展途上国と先進国のそれぞれで起きている貧困問題の実情とその背景を十分に理解している。 • 世界の人口動向を押さえ、人口問題の実情とその背景を十分に理解している。 • 日本の人口ピラミッドの作成や、高齢化率の計算が十分にできている。 • 世界の栄養不足人口の割合の推移とその背景を十分に理解している。 • 世界の水を巡る問題の実情とその背景を十分に理解している。 • 世界にはどのような感染症があるかまとめ、健康・福祉問題の実情とその背景を十分に理解している。 • 世界の教育・ジェンダー問題の実情とその背景を十分に理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> • 貧困とはどのような状況か具体例を挙げながら説明し、その解決のために求められることを考察することができている。 • 人口増加と人口減少によって起きる問題をそれぞれ整理し、その解決のために求められることを考察することができている。 • 作成した人口ピラミッドをもとに、日本の人口問題について考察することができている。 • 栄養不足人口を減少させるための取り組みについて具体例を挙げて説明し、今後どのようなことが求められているか考察することができている。 • すべての人が安全な水を持続的に利用するためにはどうすればよいか、多面的・多角的に考察し、説明することができている。 • すべての人々が健康な生活を送るために必要なことは何か、多面的・多角的に考察し、説明することができている。 • すべての人々が満足な教育を受け、またジェンダー平等を実現するにはどうすればよいか、多面的・多角的 	<ul style="list-style-type: none"> • 第2編2章2節に出てきた各地球的課題を自分ごととして捉え、これからの社会を担う自分たちが取り組まなければならないことについて構想を深めようとする姿勢が見られる。 • ワークの作業に積極的に取り組む姿勢が見られる。

<p>3節 自然と調和した豊かな社会を目指して</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーン経済について理解している。 ・世界の主な鉱産資源の分布を押さえ、資源の偏在性について理解している。 ・エネルギーの変遷について理解している。 ・再生可能エネルギーの種類とその特徴について理解している。 ・発展途上国と先進国で起きている都市問題について、その実情と背景を理解している。 ・日本の都市問題の変容を、その背景とともに理解している。 	<p>に考察し、説明することができている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な産業とはどのようなものか説明し、その実現のために求められていることを多面的・多角的に考察することができている。 ・循環型社会を築くためにはどうすればよいか、多面的・多角的に考察し、説明することができている。 ・各発電方法のメリット・デメリットをまとめ、これからのエネルギー利用のあり方について展望することができている。 ・世界や日本で起きている様々な都市問題について、その解決のために求められていることや持続可能な都市（サステナブルシティ）の実現のために必要なことを考察し、説明することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2編2章3節に出てきた各地球的課題を自分ごととして捉え、これからの社会を担う自分たちが取り組まなければならないことについて構想を深めようとする姿勢が見られる。
<p>4節 現役世代と将来世代のための地球</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化の現状やその要因、解決に向けた国際的な取り組みについて理解している。 ・砂漠化や森林減少など、陸地で起きている環境問題やその原因について理解している。 ・海洋汚染や海洋ゴミなど、海洋で起きている環境問題やその原因について理解している。 ・生物多様性や生物資源の保護の重要性と、国際的な取り組みについて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化に対し、将来にわたって自分たちにできることや、持つべき姿勢・考え方について、多面的・多角的に考察し、説明することができている。 ・陸地や海洋における環境問題について、将来にわたって自分たちにできることや、持つべき姿勢・考え方について、多面的・多角的に考察し、説明することができている。 ・生物多様性や生物資源を守るために、将来にわたって自分たちにできることや、持つべき姿勢・考え方について、多面的・多角的に考察し、説明することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2編2章4節に出てきた各地球的課題を自分ごととして捉え、これからの社会を担う自分たちが取り組まなければならないことについて構想を深めようとする姿勢が見られる。

<p>5節 平和で公正な社会に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 民族や国家の定義を理解している。 • 世界で起きている様々な紛争を、その背景とともに理解している。 • 世界の移民・難民問題を、発生国側、受け入れ国側両方の背景とともに理解している。 • 多文化主義政策など、民族の多様性を尊重した国づくりについて理解している。 • 国連やNGO、NPO、民間企業などによる国際協力の取り組みについて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> • 民族問題や移民・難民問題の解決のために求められていることを多面的・多角的に考察し、説明することができる。 • 世界で起こっている紛争と私たちの生活とのかかわりについて、具体例を挙げて説明することができる。 • 平和な世界の実現のために求められていることを多面的・多角的に考察し、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 第2編2章5節に出てきた各地球的課題を自分ごととして捉え、私たちにできる国際協力にはどのようなものがあるか考察する姿勢が見られる。 • ワーク積極的に取り組み、ダイヤモンドランキングを作成して自分の考えについて根拠を持って他者に説明し、議論することができる。
<p>第3編 持続可能な地域づくりと私たち 1章 自然環境と防災</p>	<ul style="list-style-type: none"> • プレート境界の違いと、そこで特徴的に見られる地形や自然災害について理解している。 • 日本で自然災害が多い理由を、内的営力と外的営力の観点を踏まえて理解している。 • 地震災害について、プレート境界地震と活断層地震のそれぞれの発生メカニズムや特徴を理解している。 • 火山災害について、火山噴火や噴出物の種類とそれぞれの特徴を理解している。 • 新旧地形図を読み取り比較して、地域の変化を把握することができる。 • 湿潤地域に位置する日本の気候や地形の特徴を理解している。 • 地震（津波）や火山噴火、土砂災害に対し、ハザードマップを適切に読み取り、防災計画を立てることができる。 • 風水害に対し、自分の家庭の状況を考慮しながらマイタイムラインを作成すること 	<ul style="list-style-type: none"> • 変動帯と湿潤地域に位置する日本の特徴を説明することができる。 • 地震や火山噴火、風水害などの自然災害に対し、被害を減らし、身を守るためにはどうすればよいか、ハザードマップなど適切なツールを用いて考察し、説明することができる。 • 自然災害には負の側面とともに、それによってもたらされる恩恵があることを踏まえ、日本の自然環境と共存するための方法を多面的・多角的に考察し、説明することができる。 • 自然災害に対し、高校生として社会や地域にどう貢献できるのか多面的・多角的に考察し、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 社会や地域の一員として自然災害に立ち向かうため、日本の自然環境の特徴や起こり得る自然災害について理解を深めようとする姿勢が見られる。 • 自然災害に対する備えについて、自分の考えについて根拠を持って他者に説明し、議論しながら考察しようとする姿勢が見られる。 • ワークに積極的に取り組み、地形図の読図の方法やハザードマップの読み取り方、マイタイムラインの作成の仕方などを身につけようとする姿勢が見られる。

	<p>ができています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自助・共助・公助について理解している。 		
2章 生活圏の調査と地域の展望	<ul style="list-style-type: none"> ・地域調査の意義や方法について理解している。 ・ワークにおいて、選んだテーマに対する適切な地域調査の方法を選択することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結びつき、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して主題を設定し、課題解決に求められる取り組みなどを多面的・多角的に考察・構想し、表現することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域調査に積極的に取り組み、生活圏の地理的な課題を自分なりに解決していこうとする姿勢が見られる。 ・ワークに積極的に取り組み、地域調査の方法や、生活圏の地理的な課題を解決するための取り組みなどを考察・構想するプロセスを学ぼうとする姿勢が見られる。
<p>年間の評価は、1学期・2学期・3学期の年間を通じて、3観点をバランスよく判断して決定します。</p>			

3. 学習の計画と評価の観点

学期	月	学習内容	学習のねらい	評価の観点			考查範囲
				知・技	思・判・表	主	
1 学期	4 5	第1編 1章 地図や地理情報システムと現代世界 1節 球面上の世界と地図 ①目的地への行き方 ②地球上の位置 ③世界の時差 ④世界地図の見方・使い方 ⑤地図から読み取る情報 ⑥デジタル化された地図 ⑦地理情報システムの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・地図を持たない人々の生活を想像し、地図の有用性に気づくとともに、利用しやすい工夫が現在まで続けられていることを理解する。 ・新聞広告や図書館の資料、インターネット検索などを用いて、身の回りの地図の活用事例について調べることができている。 ・地球上の位置をあらわすために緯度・経度が定められたことと、地軸の傾きによる季節変化と時差の存在を理解し、科書掲載の時差の計算のワークに積極的に取り組むことで、日本の標準時における諸外国の時間と生活のようすを想像することができる。 ・メルカトル図法、正積図法、正距方位図法の特徴と欠点を、知識として身につけるとともに、地球儀と世界地図を用いて、球面を平面に表現する際の特徴と問題点を、考えることができる。 ・地理学習の基本的な技能として、地図の縮尺や方位に注意しながら、地図上の情報を読み解く有用性を理解する。 ・インターネットを使ってさまざまなウェブ地図にアクセスし、日常的に使われているGNSSやGISなど、新しい地図表現の役割を理解する。 	○	○	○	1 学期 中間 考查
	5 6	2節 国家の結びつきとグローバル化する社会 ①国家の領域と国境 ②日本の領域とさまざまな領土問題 ③国家をこえた結びつき ④交通機関の発達と縮小する世界 ⑤情報・通信で一体化する世界 ⑥拡大する世界の貿易と物流 ⑦グローバル化と人の移動による結びつき	<ul style="list-style-type: none"> ・現代世界を構成する基本単位の国家とは何かを理解し、交通・通信の発達によって、生活、社会、産業、国家間の関係がどのように変化したかを時系列で理解する。 ・さまざまな情報手段を用いて、現在世界で起こっている国境・領土問題について調べるとともに、日本の領域と周辺国との領土問題にはどのようなものが存在するか、理解する。 ・グローバル化の中で、人・「モノ」・資本の国際移動の複雑化や、国家的結びつきの変化に気づき、国家が自国の利益などのために結んでいる国際機関の変遷を学習する。 ・単に交通・情報・通信手段の発達に目を向けるだけでなく、それらがどのように地域を結びつけ、変化させているかを地図から考えることができる。 ・インターネットショッピングを事例に、情報技術や物流、金融など、さまざまなサービスがかかわってくることを、実体験とともに考える。 ・貿易の拡大に伴い専用船の開発・普及が進み、ワールドチェーンの整備により人々の生活が豊かになっていることを、具体的な実体験を通して理解する。 	○	○	○	

	7	第2編 国際理解と国際協力 1章 生活・文化の多様性と国際理解 ①世界の生活・文化を写真でつかもう ②人々の生活に彩りを与える気候	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の本やインターネットから、世界の生活・文化を示した写真を探し、写真の中にある地理的環境を読み取り、世界は地理的環境の影響を受けた特徴ある景観で成り立っていることを学ぶ。 ・人々の生活様式の差異を通して、地理的環境が及ぼす影響について学ぶ。 ・世界の自然環境は地域的に大きく異なることを、気候の面からとらえる。 ・世界の気候帯ごとに、どのような特徴があり、どのような生活が営まれているのかを学習する。 	○		○	
2 学 期	8 9	③「衣」から見る世界 ④「食」から見る世界 ⑤「住」から見る世界 ⑥暮らしを豊かにする産業 ⑦宗教と人々の暮らし ⑧暮らしを楽しむための文化 ⑨多様性に富んだ世界の 人々との共生	<ul style="list-style-type: none"> ・その地域の自然環境と、歴史や文化といった社会環境の影響を色濃く受けた世界の特色ある生活文化を、さまざまな衣食住の事例を通して学ぶ。 ・世界の特色ある生活文化にはどのようなものがあるか関心を持ち、地域固有の自然環境や歴史、風土に基づいて形成されたと同時に、グローバル化のもとで新たな変化が生じていることを学習する。 ・祭りやスポーツ、音楽などの伝統と現代社会の影響を受け、変化が見られる事例を学び、現代世界の諸事象を読み解く視点を身につける。 ・多様なアイデンティティを持つ世界の人々と共生していくためには、他者の文化を尊重するとともに、自らの文化を知ることが重要であることを学ぶ。 	○	○		
	10	第2編 国際理解と国際協力 2章 地球的課題と国際協力 1節 持続可能な社会を目指して ①持続可能な開発目標(SDGs) ②地球的課題の地理的な側面 2節 すべての人々の尊厳と平等が守られた社会に向けて ①貧困問題 ②人口問題 ③食料問題 ④持続可能な水の利用 ⑤健康・福祉問題 ⑥教育・ジェンダー問題	<ul style="list-style-type: none"> ・5つのPの枠組みを活用して、持続可能な開発目標(SDGs)の考え方を学び、地理で学習する地球的課題が教科をこえた探究的な課題につながることを理解する。 ・現在、直面している地球的課題にはどのようなものがあるかに注目し、それらは相互に関連し、地域によって現れ方が異なることを、人口問題、食料問題、居住・都市問題、資源・エネルギー問題、地球環境問題といった具体的な事例を通して理解する。 ・地球的課題の解決の困難さや、地域差を学習し、その地域性に応じた取り組みが必要であることを理解する。 ・SDGsの達成に向け、さまざまな主体による国際協力の重要性を学ぶと同時に、企業の社会的責任やエシカルな消費者としての取組を通して、自らの行動を見直すことができる。 ・現在、直面している地球的課題にはどのようなものがあるかに注目し、それらは相互に関連し、地域によって現れ方が異なることを理解する。 ・各地球的課題について、地域性を踏まえて把握するとともにその問題の所在や解決の方向性を図書館やインターネットなどで調べ、話し合う。 ・人口問題について、先進国の少子・高齢化、発展途上国の人口爆発という対照的な問題が起こっていることを理解する。 ・食料問題について、食料分配の不平等さが飢餓と飽食の地域差を生み出していることを理解する。 	○	○		

2学期中間考査

11	<p>3節 自然と調和した豊かな社会に向けて</p> <p>①技術革新と持続可能な産業化</p> <p>②限りある資源</p> <p>③エネルギー問題</p> <p>④都市・居住問題</p>	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能なライフスタイルの実現には、さまざまな認証制度を活用した消費者としての行動が重要であることを理解し、身近な認証制度を調べ、まとめることができる。 資源・エネルギー問題について、資源の限界性と偏在性を理解し、原子力発電を含む世界のエネルギー利用の変化と新エネルギー開発の必要性について考察する。 身の回りで見られる再生可能エネルギーについて、そのメリットとデメリットを比較して、持続可能な社会に必要なエネルギー構成を構想することができる。 居住・都市問題について発展途上国ではスラム、先進国ではインナーシティ問題などが現れていることを理解する。 持続可能な都市を実現するためには都市政策と都市計画が欠かせないことを理解し、大ロンドン計画や計画都市ブラジリア、ドックランズの再開発、日本でも注目を集めるようになったグリーンインフラなどの具体的事例の学習を通して、主権者として持続可能な都市の実現に向けた行動を考察することができる。 通学路や学校周辺の空き家など、身の回りの都市問題に関心を持ち、地域の課題解決に向け学習した内容を振り返ることができる。 	○	○	○	
12	<p>4節 現役世代と将来世代のための地球</p> <p>①地球温暖化問題</p> <p>②陸地の環境問題</p> <p>③海洋の環境問題</p> <p>5節 平和で公正な社会に向けて</p> <p>①世界の民族と民族問題</p> <p>②世界のさまざまな紛争</p> <p>③さまざまな対立の解決に向けて</p> <p>④国際協力とパートナーシップ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地球環境問題のうち、酸性雨・地球温暖化・森林破壊と生物種の減少・砂漠化を例に学び、世界的な取り組みと地域に応じた取り組みが必要であることを理解する。 生物多様性に配慮した持続可能な産業や生活文化が身近なところで営まれていることを理解する。 一定地域の地理的環境と深く関連し、長い歴史をとおして育まれた民族性について理解した上で、現在発生している民族問題の解決に向けた取り組みを提案することができる。 国際社会の中で日本が果たすべき役割を認識し、国際協力について、グローバルに考える視点と身近な問題として考える視点を身につける。 世界の民族とは、共通の帰属意識（アイデンティティ）を持つ集団であり、世界の多くの国は複数の民族により構成される多民族国家であり、多文化社会を構成して多民族が共生している国もあれば、内部に対立を抱える国も存在することを理解できる。 NGOやNPOによる国際協力や、CSRにもとづいた企業の国際協力、消費者の立場で自ら取り組む国際協力など、さまざまな形のパートナーシップについて理解できる。 	○	○	○	

2学期期末考査

学年末考査

3 1 学 期	<p>第3編 持続可能な地域づくりと私たち</p> <p>1章 自然環境と防災</p> <p>①地球規模で見る地形の姿と自然災害</p> <p>②人々の暮らしを取りまく自然環境</p> <p>③変動帯の自然と防災</p> <p>④湿潤地域の自然と防災</p> <p>⑤私たちができる災害への備え</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 世界を大きく変動帯と安定大陸で分類し、多くの自然災害は変動帯で起きていることを理解する。 • 変動帯はプレートテクトニクスによって説明され、日本列島周辺は4つのプレートがぶつかり合っていることを理解する。 • 日本に暮らす人々の生活は、気候や局地的な気候、地形などに影響を受けていることを、実体験に基づいて理解する。 • 変動帯で見られる地震や火山の特徴を体系的に学び、その備えについて具体例を通して理解する。 • 防災や減災のために地形図を活用するため、地形図の読図について理解する。 • 降水強度の大きい湿潤な日本の気候環境を把握し、地形に応じた防災・減災のあり方について理解を深める。 • 地形の状態に応じて暮らしてきた日本の村落・都市立地を理解し、地形改変による生活環境の変化が人々の暮らしにどのような影響をもたらしたか考察する。 • 自然災害に備えるためには日常の備えが重要であり、減災に向けた地域防災力の向上が重要であることを理解する。 • 教科書に掲載されている写真や地図・図版を適切に参照し、自然災害が多発する日本列島に、豊かな文化が築かれた背景を考察する。 • 生活に影響を与えている気候、局地的な気候について理解し、気候によって異なった特徴を見せる生活・文化について、インターネットや周りの人から具体例を積極的に聞き出し、グループで話し合う。 • 自然災害の多い日本列島で、人々の生活に大きな影響を与える火山災害・水害・地震について、自然現象やこれまで受けてきた災害の歴史を理解するとともに、先人の知恵が詰まった、災害に備え、災害とともに暮らす生活について関心をもって考察する。 • 自然災害に備えるためには、ハザードマップや緊急地震速報の有用性を認識するとともに、災害に強い地形や環境について理解し、災害に見舞われた際になるべく被害を減らせる(減災)できるよう、地域防災力を高めるために個人ができることを積極的に話し合う。 • 自らが住む地域のハザードマップをインターネットで検索したり、市役所や町役場で発行しているハザードマップを入手したりして、最も起こりやすいと想定されている災害は何か、また避難時に障害となる場所はどこか、など、地域とそこに住む住民とともに減災に向けて意欲的に取り組む。 • 風水害や土砂災害への備えとしてタイムライン策定の重要性について、教科書のワークに取り組むことで理解を深めることができている。 • 自然災害からの復興を困難にする複合災害について具体的な事例を通して理解し、これまで学んだ対策を組み合わせるために必要な行動について考察できている。 	○	○	○	○
------------------	---	--	---	---	---	---

数学Ⅱ

教 科	数学	単位数	3	学科・学年	全科2年
使用教科書	新編 数学Ⅱ（数研出版）				
副教材等	3TRIAL 数学Ⅱ（数研出版）				

「 数学Ⅱ 」の到達目標は

- (1) 多項式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにする。
- (2) 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。
- (3) 方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くことができるようにする。
- (4) 剰余の定理や因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。
- (5) 座標や式を用いて、直線や円の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。
- (6) 図形を、与えられた条件を満たす点の集合として認識するとともに、不等式を満たす点の集合が座標平面上の領域を表すことを理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。
- (7) 角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できるようにする。

1. 評価の観点の趣旨と方法

	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・ 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・ 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年5回の定期考査 ・ 長期休業あけの宿題テスト ・ 単元テスト ・ 小テスト ・ 課題の出来栄 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年5回の定期考査 ・ 長期休業あけの宿題テスト ・ 単元テスト ・ 課題の出来栄 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業ノートのまとめかた ・ 授業の取り組み状況 ・ 課題の取り組み状況

2. 評価の規準（及び年間の評定）

内容のまとめ(単元)	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1章 式と証明	<ul style="list-style-type: none"> ○3次式の展開の公式を利用することができる。 ○3次式の因数分解の公式を利用することができる。 ○式の形に着目して変形し、3次式の因数分解の公式を適用する形にすることができる。 ○$(a+b)^n$の展開式からパスカルの三角形を導き、パスカルの三角形の性質を理解する。 ○多項式の割り算の計算方法を理解している。 ○割り算で成り立つ等式を理解し、利用することができる。 ○分数式の約分、四則計算ができる。 ○分数式の計算の結果を、既約分数式または多項式の形にして表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○数学Iで既習の2次式の展開公式を利用して、3次式の展開公式を導くことができる。 ○二項定理をパスカルの三角形と結び付けて考えることができる。 ○二項定理を等式の証明に活用することができる。 ○多項式の割り算の結果を等式で表して考えることができる。 ○分数式を分数と同じように約分、通分して扱うことができる。 ○恒等式における文字の役割の違いを認識できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○因数分解の検算に展開を利用しようとする態度がある。 ○$(a+b+c)^n$を展開したときの$a^p b^q c^r$の係数がどうなるかを、興味・関心をもって調べようとする。 ○多項式の割り算の計算方法を理解しようとする態度がある。 ○通分をすることで、約分できる形に適切に式変形をしようとする態度がある。 ○2種類の文字を含む多項式の割り算に興味を示し、具体的な問題に取り組もうとする。 ○繁分数式を分数式の性質を用いて処理することに意欲を示す。
第2章 複素数と方程式	<ul style="list-style-type: none"> ○複素数、複素数の相等の定義を理解している。 ○複素数の四則計算ができる。 ○共役な複素数を求めることができる。 ○負の数の平方根を理解している。 ○負の数の平方根を含む式の計算を、iを用いて処理することができる。 ○2次方程式の解の公式を利用して、2次方程式を解くことができる。 ○判別式を利用して、2次方程式の解の種類を判別することがで 	<ul style="list-style-type: none"> ○複素数の表記を理解し、複素数$a+0i$を実数aと同一視できる。 ○複素数の四則計算の結果は複素数であることを理解している。 ○与えられた2数を解にもつ2次方程式が1つには定まらないことを理解している。 ○異なる2つの実数α、βが正の数、負の数、異符号であることを、同値な式で表現できる。 ○2次方程式の解の符号に関する問題を、解と係数の関係を利用して解くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○2次方程式が常に解をもつように考えられた複素数に興味・関心を示し、考察しようとする。 ○2次方程式の解が虚数になる場合もあることに興味を示し、2次方程式の解を考察しようとする。 ○2次式を複素数の範囲で因数分解することに興味をもち、問題に取り組もうとする。 ○2次方程式の解の符号を2次関数のグラフで考察することに興味をもち、問題に取り組もうとする。

	<p>きる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○解と係数の関係を使って、対称式の値や2次方程式の係数を求めることができる。 ○対称式を基本対称式で表して、式の値を求めることができる。 ○2次方程式の解を利用して、2次式を因数分解できる。 ○2数を解とする2次方程式を作ることができる。 ○剰余の定理を利用して、多項式を1次式や2次式で割ったときの余りを求めることができる。 ○$P(k) = 0$であるkの値のを見つけ方を理解し、高次式を因数分解できる。 ○因数分解や因数定理を利用して、高次方程式を解くことができる。 ○高次方程式の2重解、3重解の意味を理解している。 ○高次方程式の虚数解から、方程式の係数を決定することができる。 ○高次方程式が虚数解$a + bi$を解にもてば、$a - bi$を解にもつことを利用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多項式を1次式で割ったときの余りについて、剰余の定理で考察することができる。 ○多項式$P(x)$が$x - k$で割り切れることを式で表現することができる。 ○高次方程式を1次方程式や2次方程式に帰着させることができる。 ○高次方程式が解αをもつことを、式を用いて表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多項式を1次式で割る計算に、組み立て除法を積極的に利用する。 ○1の3乗根の性質に興味・関心をもち、具体的な問題に取り組もうとする。 ○1「の3乗根に興味・関心をもち、問題に取り組もうとする。
<p>第3章 図形と方程式</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○数直線上において、2点間の距離、線分の内分点、外分点の座標が求められる。 ○線分の外分点の公式を適用する際に、分母を正にして計算しようとする。 ○座標平面上において、2点間の距離が求められる。 ○座標平面上において、線分の内分点、外分点 	<ul style="list-style-type: none"> ○線分の内分点、外分点の公式を統一して捉えようとする。 ○図形の性質を証明する際に、計算が簡単になるように座標軸を適切に設定できる。 ○直線がx, yの1次方程式で表されることを理解している。 ○図形的条件（線対称など）を式で表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○数直線上の点について調べようとする。 ○図形の問題を座標平面上で代数的に解決する解法のよさを知ろうとする。 ○x切片とy切片が与えられた直線の方程式について、一般に成り立つ性質を考察しようとする。 ○ある点を通り与えられた直線に平行な直

	<p>の座標が求められる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○三角形の重心の座標の公式を理解している。 ○x 軸に垂直な直線は $y = mx + n$ の形に表せないことを理解している。 ○与えられた条件を満たす直線の方程式の求め方を理解している。 ○2 直線の平行・垂直条件を理解していて、それを利用できる。 ○図形 $F(x, y) = 0$ が点 (s, t) を通ることを $F(s, t) = 0$ として処理できる。 ○点と直線の距離の公式を理解していて、それを利用することができる。 ○ $kF(x, y) + G(x, y) = 0$ の形を利用して、直線の方程式を求めることができる。 ○与えられた条件を満たす円の方程式の求め方を理解している。 ○x, y の 2 次方程式を変形して、その方程式が表す図形を調べることができる。 ○図形 $F(x, y) = 0$ が点 (s, t) を通ることを $F(s, t) = 0$ として処理できる。 ○3 点を通る円の方程式を求めることができる。 ○円と直線の共有点の座標を求めることができる。 ○円と直線の位置関係を、適切な方法で判定できる。 ○円の接線の公式を理解していて、それを利用できる。 ○円外の点から引いた 	<ul style="list-style-type: none"> ○直線に関して対称な点の座標を求めることができる。 ○点の座標を求めるのに、図形の性質を適切に利用できる。 ○円の方程式が x, y の 2 次方程式で表されることを理解している。 ○3 点を通る円はこの 3 点を頂点とする三角形の外接円であることを理解している。 ○円と直線の共有点の個数を、2 次方程式の実数解の個数で考察することができる。 ○円の中心から直線までの距離と円の半径の大小関係を代数的に処理することで、円と直線の位置関係を考察することができる。 ○2 つの円の位置関係を、中心間の距離と半径の関係で考察することができる。 ○平面上の点の軌跡を、座標平面を利用して考察することができる。 ○軌跡を求めるには、逆についても調べる必要があることを理解している。 ○不等式の満たす解を、座標平面上の点の集合としてみることができる。 	<p>線、垂直な直線の方程式を公式化し、利用しようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○2 直線の交点を通る直線の方程式に興味・関心をもち、具体的な問題に利用しようとする。 ○垂心について、直線の方程式を利用して代数的に考察しようとする。 ○x, y の 2 次方程式が常に円を表すとは限らないことを考察しようとする。 ○円と直線の位置関係を、2 次方程式の判別式や、円の中心から直線までの距離と円の半径の大小関係により調べようとする。 ○2 つの円の交点を通る円の方程式に興味・関心をもち、具体的な問題に利用しようとする。 ○x, y の 2 次方程式が常に円を表すとは限らないことを考察しようとする。 ○点が満たす条件から得られた方程式がどのような図形を表しているかを考察しようとする。 ○少し複雑な不等式の表す領域についても、興味をもち、取り組もうとする。 ○不等式を含む命題を、不等式の表す領域を用いて証明することに興味・関心をもち ○不等式の表す領域を確認する方法に興味をもち、実際の問題に利用してみようとする。
--	---	--	---

	<p>接線の方程式を求めることができる。</p> <p>○2つの円の位置関係を、中心間の距離と半径の関係から調べることができる。</p> <p>○2つの円の位置関係と、中心間の距離と半径から、円の方程式を求めることができる。</p> <p>○点が満たす条件から得られた方程式を、図形として考察することができる。</p> <p>○軌跡の定義を理解し、与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができる。</p> <p>○媒介変数処理が必要な軌跡の求め方を理解している。</p> <p>○不等式の表す領域を図示することができる。</p> <p>○連立不等式の表す領域を図示することができる。</p> <p>○領域を利用する1次式の最大値・最小値の求め方を理解している。</p>		
<p>第4章 三角関数</p>	<p>○一般角を表す動径を図示したり、動径の表す角を $\alpha + 360^\circ \times n$ と表したりすることができる。</p> <p>○角度の表し方に度数法と弧度法があることを理解している。また、弧度法の定義を理解し、度数法と弧度法の換算をすることができる。</p> <p>○扇形の弧の長さや面積の公式を理解している。</p> <p>○弧度法で表された角の三角関数の値を、三角関数の定義によって求めることができる。</p>	<p>○一般角を動径とともに考察することができる。</p> <p>○弧の長さで角を図ることができる。</p> <p>○三角比の定義を、三角関数の定義に一般化することができる。</p> <p>○単位円上の点の動きから、三角関数のグラフを考察することができる。</p> <p>○三角関数の性質を、グラフの特徴とともに考察することができる。</p> <p>○三角関数の性質を、単位円を用いて考察す</p>	<p>○弧度法に興味をもち、角度の換算に取り組もうとする。</p> <p>○三角比の定義を一般化して、三角関数の定義を考察しようとする。</p> <p>○ $y = \sin\theta$ と $y = \cos\theta$ のグラフが同じ形の曲線であることに興味・関心をもつ。</p> <p>○周期関数に興味をもち、その性質を調べようとする。</p> <p>○単位円や三角関数のグラフを利用して、三角関数の性質を調べようとする。</p> <p>○三角関数を含む方程式・不等式を解くこと</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ○単位円周上の点の座標を、三角関数を用いて表すことができる。 ○三角関数の相互関係を理解し、それらを利用して様々な値を求めたり、式変形をしたりすることができる。 ○いろいろな三角関数のグラフのかき方と周期の求め方を理解している。 ○三角関数の性質とグラフの特徴を相互に理解している。 ○$\theta + 2n\pi$ や $-\theta$ などの公式を理解し、それらを用いて三角関数の値を求めることができる。 ○三角関数を含む2次方程式の解き方を理解している。 ○三角関数を含む関数の最大値・最小値を求めることができる。 ○加法定理を利用して、種々の三角関数の値を求めることができる。 ○正接の加法定理を利用して、2直線のなす角を考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ることができる。 ○三角関数を含む方程式・不等式を解く際に、単位円やグラフを図示して考察することができる。また、その解き方を理解している。 ○$-1 \leq \sin \theta \leq 1$ などに注意して、おき換えによって三角関数を含む関数の最大値・最小値を考察できる。 ○角を弧度法で表した場合にも、加法定理が適用できる。 ○正接の定義と加法定理を利用して、2直線のなす角を考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> に取り組む意欲がある。 ○サインカーブが円柱の切り口に現れることに興味・関心を持ち、身近な例を調べようとする。 ○加法定理の証明について、一般角に対しても成り立つことに興味を持ち、考察しようとする。
<p>1年間の評定は、1学期・2学期・3学期の年間を通じて、知識・技能を重視して総合的に判断し決定します。</p>			

3. 学習の計画と評価の観点

学期	月	学習内容	学習のねらい	評価の観点			検査範囲
				知・技	思・判・表	主	
1 学期	4	4章 三角関数 1節 三角関数	角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できるようにする。	○	○	○	中間 検査
	5			○	○	○	
	6	2節 加法定理	加法定理を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	期末 検査
	7	1章 式と証明 1節 式と計算	多項式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにする。	○		○	中間 検査
2 学期	8		○		○		
9 10	9	2章 複素数と方程式 1節 複素数と 2次方程式の解	方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くことができるようにする。	○	○	○	期末 検査
	10			○	○	○	
	11	2節 高次方程式	剰余の定理や因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。	○	○	○	
3 学期	12	3章 図形と方程式 1節 点と直線	座標や式を用いて、直線の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	学 年 末 考 査
	1	2節 円	座標や式を用いて、円の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	
	2	3節 軌跡と領域	図形を、与えられた条件を満たす点の集合として認識するとともに、不等式を満たす点の集合が座標平面上の領域を表すことを理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	
	3			○	○	○	

数学A

教 科	数学	単位数	2	学科・学年	全科2年（選択）
使用教科書	改訂版 新編 数学A（数研出版）				
副教材等	改訂版 3TRIAL 数学A（数研出版）				

「 数学A 」の到達目標は

- (1) 図形の性質，場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 図形の構成要素間に関係などに着目し，図形の性質を見だし，論理的に考察する力，不確実な事象に着目し，確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力，数学と人間の活動との関わりに着目し，事象に数学の構造を見だし，数理的に考察する力を養う。
- (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

1. 評価の観点の趣旨と方法

	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。 	数学を活用して事象を論理的に考察する力，事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善しようとしたりしている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・単元テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・単元テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ノートのまとめかた ・授業の取り組み状況 ・課題の取り組み状況

2. 評価の規準（及び年間の評定）

内容のまとめり(単元)	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>1章 場合の数と確率 1節 場合の数</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 和集合や補集合について理解し、その要素の個数を求めることができる。 • 和集合、補集合の要素の個数の公式を利用できる。 • ベン図を利用することで、和集合や補集合の要素の個数を求めることができる。 • 樹形図を用いて、場合の数をもれなくかつ重複なく数えることができる。 • 和の法則、積の法則の利用場面を理解し、事象に応じて使い分けて場合の数を求めることができる。 • 順列の総数、階乗を記号で表し、それを活用できる。 • 順列、円順列、重複順列の公式を理解し、利用することができる。 • 組合せの総数を記号で表し、それを活用できる。また、組合せの公式を理解し、利用することができる。 • 組合せの条件が付く場合に、条件の処理の仕方を理解している。 • 組分けの総数を求めることができる。 • 同じものを含む順列の総数を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> • ベン図を利用して集合を図示することで、集合の要素の個数を考察することができる。 • 場合の数を数える適切な方針を考察することができる。 • 自然数の正の約数の個数を数える方法を考察することができる。 • 条件が付く順列、円順列を、見方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。 • 既知の順列や積の法則をもとにして、円順列、重複順列を考察することができる。 • 既知である順列の総数をもとにして、組合せの総数を考察することができる。 • 条件が付く組合せを、見方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。 • 同じものを含む順列を、組合せで考察することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 集合を考えることで、日常的な事柄などを、集合の要素の個数として数学的に数えようとする。 • 表を作って集合の要素の個数を求める方法に興味を示し、それを利用しようとする。 • 道順の数え方に興味を示し、樹形図、和の法則や対称性などによる場合の数の数え方に関心をもつ。 • 自然数の正の約数の個数を数えること、式の展開を利用して約数が列挙できることに興味を示す。 • 既知である積の法則から順列の総数を求める式を導こうとする。 • 色の塗り分けの方法を数えるのに、順列の考え方が使えることに興味・関心をもつ。 • 順列、円順列、重複順列の違いに興味・関心をもつ。 • 順列と組合せの違いに興味・関心をもつ。 • 重複組合せについて理解し、その総数を、順列や組合せの考えを適切に用いて求めようとする。
<p>2節 確率</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 確率の意味、試行や事象の定義を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> • 不確定な事象を、同様に確からしいという概念をもとに、数量的 	<ul style="list-style-type: none"> • 1個のさいころを繰り返し投げる実験などを通して、統計的確率

	<ul style="list-style-type: none"> 確率の定義を理解し、確率の求め方がわかる。 積事象、和事象の定義を理解している。 確率の基本性質を理解し、和事象、余事象の確率の求め方がわかる。 確率の計算に集合を活用し、複雑な事象の確率を求めることができる。 独立な試行の確率を、公式を用いて求めることができる。 反復試行の確率を、公式を用いて求めることができる。 条件付き確率を、記号を用いて表すことができる。 条件付き確率や確率の乗法定理を用いて確率の計算ができる。 期待値の定義を理解し、期待値を求めることができる。 	<p>に捉えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 集合の性質を用いて、確率の性質を一般的に考察することができる。 独立な試行の確率を、具体的な例から直観的に考えることができる。 既習の確率の知識を利用して、反復試行の確率について考察することができる。 既習の確率と条件付き確率の違いについて、図や表などを用いて考察することができる。 結果が不確実な状況下において、どの選択が有理かを判断する基準として、期待値の考えを用いて考察することができる。 	<p>と数学的確率の違いに興味・関心をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 独立な試行の確率について、興味をもって調べようとする。 具体的事象について、反復試行の確率を、興味をもって調べようとする。 条件付き確率や確率の乗法定理の考えに興味・関心をもち、積極的に活用しようとする。 日常の事象における不確実な事柄について判断する際に、期待値を用いて比較し、考察しようとする。
<p>2章 図形の性質 1節 平面図形</p>	<ul style="list-style-type: none"> 定理を適切に利用して、線分の比や長さを求めることができる。 三角形の外心、内心、重心の定義、性質を理解している。 チェバの定理、メネラウスの定理を理解している。 チェバの定理、メネラウスの定理を、三角形に現れる線分比を求める問題に活用できる。 円の基本的な性質を理解している。 円周角の定理と円周角の定理の逆を理解している。 円に内接する四角形 	<ul style="list-style-type: none"> 図形の性質を証明するのに、既習事項を用いて論理的に考察することができる。また、適切な補助線を引いて考察することができる。 チェバの定理、メネラウスの定理について、論理的に考察し、証明することができる。 円に内接する四角形の性質について、論理的に考察することができる。 円に内接する四角形の性質に着目し、逆に、四角形が円に内接するための条件について論理的に考察することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 三角形の角の二等分線と比について調べようとする態度がある。 三角形の外心、内心、重心に関する性質に興味を示し、積極的に考察しようとする。 チェバの定理、メネラウスの定理に興味を示し、積極的に考察しようとする。 相似を利用した方べきの定理の導き方に興味・関心をもつ。 2つの円の位置関係と、中心間の距離と半径の関係を積極的に考察しようとする。 数学で扱う作図と、日常において図形をかくことでは、何が違う

	<p>の性質を利用して、角度を求めることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 円の接線の性質を利用して、線分の長さを求めることができる。 • 円の接線と弦の作る角の性質を利用して、角度を求めることができる。 • 方べきの定理を利用して、線分の長さなどを求めることができる。 • 2つの円が内接しているとき成り立つ性質を利用して角度を求めることができる。 • 共通接線の定義を理解し、その長さの求め方がわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 円と直線を動的にとらえて、それらの位置関係を考察することができる。 • 方べきの定理について、対象とする図形に応じて見方を変えて考えることができる。 • 2つの円を動的にとらえて、それらの位置関係を考察することができる。 	<p>か考えてみようとする。</p>
<p>2節 空間図形</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 空間における2直線の位置関係やなす角を理解し、正多面体の特徴を理解し、それに基づいて面、頂点、辺の数を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 空間における直線と平面が垂直になるための条件を、与えられた立体に当てはめて考察することができる。 • 空間における直線や平面が平行または垂直となるかどうかを、与えられた条件から考察することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 空間における図形の位置関係について、積極的に考えてみようとする。 • オイラーの多面体定理がどんな凸多面体でも成り立つかどうか調べてみようとする。
<p>3章 数学と人間の活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 約数・倍数の意味を理解している。 • いろいろな数の倍数の判定法を理解している。 • 自然数の素因数分解を求めることができる。 • 自然数の正の約数やその個数を求めるのに、素因数分解が利用できることを理解している。 • 素因数分解を利用して最大公約数・最小公倍数を求める方法 	<ul style="list-style-type: none"> • 4の倍数の判定法から類推して、8の倍数の判定法を考察することができる。 • 数字の並びから、素数についてどのようなことが成り立つかを考察することができる。 • 身近な事象について数学的に捉え、最大公約数・最小公倍数との関係について考察することができる。 • 問題解決の過程を振り返って、割り算の余り 	<ul style="list-style-type: none"> • いろいろな数の倍数の判定法について調べようとする態度がある。 • 素数と素因数分解について学ぼうとする態度がある。 • 身近な事象について、最小公倍数との関連を見つけて考察しようとする。 • 割り算の方法や割り算の余りの性質に興味・関心をもつ。 • 素因数分解をしなくても、互除法によって最

	<p>を理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 互いに素の意味を理解している。 整数 a を正の整数 b で割る割り算を、a と b の間に成り立つ等式として捉えることができる。 2つの整数 a, b を除数と余りを用いて表し、$a + b$ などの余りを求めることができる。 互除法の原理を理解し、互除法を用いて2数の最大公約数を求めることができる。 1次不定方程式の特殊解を求め、それによりすべての整数解を求めることができる。 	<p>の性質について考察を深めることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常的な問題について、1次不定方程式と関連付けて考察することができる。 	<p>大公約数が求められることに興味・関心をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 互除法を利用するなどして、$ax + by = c$ を満たす整数 x, y の組を求める方法に興味・関心をもつ。 日常的な問題について、1次不定方程式と関連付けて考察しようとする態度がある。
--	---	---	---

1年間の評定は、1学期・2学期・3学期の年間を通じて、「知識：技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を総合的に判断して決定します。

3. 学習の計画と評価の観点

学期	月	学習内容	学習のねらい	評価の観点			調査範囲
				知・技	思・判・表	主	
1 学期	4	1章 場合の数と確率 1節 場合の数 順列	場合の数を求めるときの基本的な考え方についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	中間 調査
	5						
	6	1節 場合の数 組み合わせ	場合の数を求めるときの基本的な考え方についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	期末 調査
	7	2節 確率	確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	中間 調査
2 学期	8	2節 確率	確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	中間 調査
	9						

	10	2章 図形の性質 1節 平面図形	平面図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	期末 考査
	11						
3 学 期	12	2節 空間図形	空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	学 年 末 考 査
	1	3章 数学と人間の活動	さまざまな人間の活動の中から、整数を中心とした数学的な要素を見出し、数学の内容の理解を深めると同時に、現実の事象を、数学を用いて考察できるような力を培う。	○	○	○	
	2						

物理基礎

教 科	理科	単位数	2	学科・学年	2年 全科
使用教科書	改訂版 物理基礎 (数研出版)				
副教材等	ネオパルノート 物理基礎 (第一学習社)				

「物理基礎」の到達目標は

- (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い科学的に探究する力を養う。
- (3) 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を養う。

1. 評価の観点の趣旨と方法

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 運動とエネルギー、熱、波および電気を表す式がどのようにして得られたかを理解できる。また、その式やグラフを正しく運用することができる。 観察により、身近な運動を測定することができる。また、実験の技能とともに、実験データの処理の仕方(グラフを書き、得られたデータの意味を読み取ることができる。)も習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> 物理的事象に対して、どのような規則性、法則性があるのか。また、それを見出すためには、すでに学んだことをどのように適用することができるのかなどを、判断することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動とエネルギー、熱、波および電気について興味・関をもち、考えてみようという意欲をもつ。また、設問に対しても積極的に意見を述べることができる。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 年4回の定期考査 実験レポート 	<ul style="list-style-type: none"> 年4回の定期考査 発表内容 授業での質疑応答 実験レポート 	<ul style="list-style-type: none"> 授業ノートのまとめ方 授業態度、質疑応答 実験に取り組む姿、レポート

2. 評価の規準（及び年間の評定）

内容のまとめ(単元)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方</p> <p>第2章 運動の法則</p>	<ul style="list-style-type: none"> 物体の速さの式を理解できる。 等速直線運動の式および $x-t$ 図, $v-t$ 図を理解できる。 物体の運動を表すには向きが必要であり, 速さと速度, 移動距離と変位の違いを理解できる。 平均の速度と瞬間の速度の違いを理解できる。 直線上の合成速度, 相対速度の意味と求め方を理解できる。 加速度の定義や正負の意味を正しく理解できる。 等加速度直線運動を表す3つの式がどのようにして得られたかを理解し, その式やグラフを正しく運用することができる。 斜面上を降下する台車の運動を記録タイマーで調べ, 得られた結果からグラフを作成し, 加速度を求めることができる。 自由落下や鉛直投射において, 与えられた時刻における高さや速度を与える式の運用ができる。 自由落下や鉛直投射はいずれも等加速度直線運動の一種であることを理解できる。 水平投射は鉛直方向には自由落下, 水平方向には等速直線運動をしていることを理解できる。 重力, 垂直抗力, 摩擦力, 糸が引く力, 弾性力について, 理解できる。 力がベクトル量であることを認識し, 力の合成や分解ができる。 注目する物体にはたらく力が指摘でき, つりあいの式が立てられる。 作用・反作用の2力とつ 	<ul style="list-style-type: none"> 等速直線運動する物体の運動のようすについて説明できる。 動く観測者から見た場合の, 観測者と同一直線上を動く物体の運動のようすを説明できる。 速度の意味・表し方, またこれらはグラフ上ではどのように示されるかを正しく理解し, それをもとに物体の運動のようすを考えることができる。 等加速度直線運動する物体のようすについて説明できる。 加速度の意味・表し方, またこれらはグラフ上ではどのように示されるかを正しく理解し, それをもとに物体の運動のようすを考えることができる。 斜面上を降下する台車の運動を記録タイマーで調べ, 加速度が一定であることを考察することができる。 自由落下する物体のようすについて説明できる。 重力加速度の意味を正しく理解し, 落下する物体の運動のようすを考えることができる。 フックの法則とばね定数の意味を理解し, グラフからばね定数を読み取ることができる。 重力の大きさは物体の質量と重力加速度の大きさとの積であり, 運動の状態によらないことを説明できる。 力の表し方を理解し, 	<ul style="list-style-type: none"> 日常の運動から, 速さ, 時間, 進距離についての関係に興味をもち, 速さと速度の違いや, 相対速度の意味や使い方を理解しようとしている。 スタート直後の速さの比較によって, 加速度を学ぶ意味を理解しようとしている。 斜面上を降下する台車の運動を調べる実験に主体的に取り組んでいる。 日常の運動から, 落下する物体の運動に興味をもち, 自由落下する物体の運動, 鉛直投射された物体の運動の表し方を理解しようとしている。 見ること, 触ることができない「力」に対して, どのようにして力の存在がわかるのか, また力にはどのような種類があるのかについて考えようとしている。 力が合成・分解して表されることに興味をもち, 「力がつりあう」とは

	<p>りあいの 2 力を区別して考えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 3つの力がはたらいてつりあうときの力の関係を確認でき、理解できる。 • はねにつながれた棒が取り付けられた台車を用いて、作用反作用の法則が成りたつことを確認できる。 • 物体が力を受けるとき(あるいは受けないうち)、運動状態はどのようなになるか、逆に、物体の運動状態からどのような力がはたらいているかを指摘できる。 • さまざまな運動をしている物体について、運動方程式を立てて考えることができる。 • 力学台車に力を加えるとき、どのような運動となるかを実験で調べることができ、データにまとめることができる。 • 注目する物体に摩擦力はどの向きに現れるか、また最大摩擦力の大きさは 2 物体間の面の状態を表す静止摩擦係数 μ と、垂直抗力 N との積で表されることを理解できる。 • 静止摩擦力を用いた力のつりあいの式を立てたり、動摩擦力を用いた運動方程式を立てたりすることができる。 • 静止摩擦係数がどのような量によって決まるのかを実験で調べることができる。 • 圧力を求める式を理解できる。 • 水圧を求める式を理解し、水中にある物体が静止しているとき、物体にはたらく力のつりあいの式を立てることができる。 • 水中にある物体にはどのような浮力がはたらくかを理解できる。 	<p>「1N」はどのような力か説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 作用・反作用の 2 力とつりあいの 2 力の違いを理解し、力のつりあいの式を考え、それぞれの 2 力の間の関係について説明できる。 • 慣性の法則、運動方程式が理解でき、問題解決にあたって式の運用が正しくできる。 • 運動方程式を用いて、物体の運動を説明できる。 • 力学台車に力を加えるときの運動を実験で調べ、引く力の大きさと加速度の大きさ、台車の質量の間にある関係について考えることができる。 • 摩擦力がどのような力かを理解し、運動を妨げる向きにはたらく運動について考えることができる。 • 物体にはたらく摩擦力について説明できる。 • 水中にある物体には、どのような水圧が加わるか、またどのような浮力がはたらくかを正しく理解し説明できる。 	<p>どういふことを理解しようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「作用・反作用」と「つりあいの 2 力との違いについて、考えようとしている。 • 物体の運動状態は、受ける力とどのような関係にあるかについて興味・関をもち、理解しようとしている。 • 力学台車に力を加えるときの運動を調べる実験に主体的に取り組んでいる。 • 摩擦力がないときと比較するなどして、どのようなときに静止摩擦力や動摩擦力が現れるか、またそのときの物体の運動について、興味・関をもち考えようとしている。 • 日常の現象などを通して、水中や空気中で圧力があることに関を寄せ、それらの圧力はどのようにしてはかることができるか、そもそも圧力とは何か、ということを考えようとしている。
--	--	---	--

第3章
仕事と力学的エネルギー

- 仕事, 仕事率を計算して求めることができる。
- 物体に対して力がはたらいていても, 仕事が0のときもあり, それがどのようなときであるかを理解できる。
- 「仕事の原理」を仕事を計算して求めたものを比較することにより, 理解できる。
- 仕事率Pは「 W/t 」だけでなく, 「 Fv 」でも求められることを理解できる。
- 運動エネルギーが $\frac{1}{2}mv^2$ であることを理解できる。
- 運動エネルギーの変化は物体にされた仕事に等しいことを理解できる。
- 重力による位置エネルギーを計算することができる。
- 弾性力による位置エネルギーを計算することができる。
- 物体が基準点マまで移動するときに保存力がある仕事が, 位置エネルギーであることを確認できる。
- さまざまな物体の運動について, 力学的エネルギー保存則を用いることができる。
- 物体に保存力以外の力がはたらくとき, その仕事の量だけ物体の力学的エネルギーは変化することを理解できる。
- 力学的エネルギー保存則が成り立つための条件が整っているかどうかを判断できる(→保存力以外の力が物体に対して仕事をしない)。
- 力学的エネルギー保存則を定性的に検証できる。

- 物体に対して力がはたらいていても, 仕事が0のときもあり, それがどのようなときであるかを説明できる。
- 「仕事の原理」を理解し, 道具を用いたときに必要な仕事がどうなるかを説明できる。
- 運動エネルギーがどのようなものかを理解し説明できる。
- 運動エネルギーの変化は物体にされた仕事に等しいことを用いて, 物体の運動を説明できる。
- 状態が異なる場合の位置エネルギーを, 比較して考えることができる。
- 重力による位置エネルギー, 弾性力による位置エネルギーについて弄明することができる。
- 力学的エネルギー保存則を用いて, 物体の運動を定性的に考えることができる。
- 力学的エネルギー保存則を用いて, 運動する物体のもつ運動エネルギー, 位置エネルギー力学的エネルギーの変化のようすを説明することができる。
- 実験から得られた結果と力学的エネルギー保存則から理論的に求めた値を比較して考えることができる。

- 日常用いる「仕事」と物理で使う「仕事」の違いを理解し物理でいうところの「仕事」について理解しようとしている。
- 運動している物体は, どのようなエネルギーをもっているかについて興味をもち, 考えようとしている。
- 位置エネルギーは, 運動エネルギーのように動きがあり目立つものではないが, 仕事をする能力を「秘めて」いることに興味をもち, 理解しようとしている。
- 力学的エネルギー保存則について興味関心をもち, 理解しようとしている。
- 力学的エネルギー保存則の実験に主体的に取り組んでいる。

<p>第2編 熱 第1章 熱とエネルギー</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 温度、熱運動、熱量、比熱、熱容量などが正しく理解できる。 • 熱量の保存について理解し、熱量保存の式を立てることができる。 • 物質が、固体→液体、液体→気体になる際の、熱のやりとりについて理解できる。 • 仕事と熱の関係や熱力学第一法則について理解できる。 • 熱機関と熱機関の効率について理解できる。 • 日常的な現象を熱と仕事の関係を踏まえて説明できる。 • 不可逆変化とはどのような変化かを説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 日常的な事象を、学習内容に照らし合わせて説明できる。 • 温度や熱容量、比熱はどのような物理量か、自分の言葉で説明できる。 • 水の状態図から情報を読み取り、日常的な事象について理由などを推測し説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> • ものの温まりやすさなど、熱にかかわる現象について興味関をもち、理解しようとしている。 • 熱と仕事の関係について興味関心をもち、理解しようとしている。
<p>第3編 波 第1章 波の性質</p> <p>第2章 音</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 波の発生原理や基本事項を理解できる。 • 縦波と横波の違いを理解できる。 • 縦波を横波の形で表現できる。 • 定在波の生じるしくみを理解できる。 • ウェーブマシンの観察を通して、波の重ねあわせの原理や自由端・固定端での波の反射について理解できる。 • 日常生活での体験を通して、音の波としての性質を理解できる。 • うなりについて、音の干渉の知識を用いて定量的に扱うことができる。 • 弦や気柱の振動と音の高さの関係について理解できる。 • 気柱の振動の際、管内に生じる定在波の腹は管口より外にできることを理解できる。 • 気柱共鳴装置を用い、気柱の共鳴音からおんさの振動数を求めることができ、理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 波の伝わるようすを、グラフで表現することができる。 • 波に基本事項について説明できる。 • 与えられた情報を正しく読み取り、問いに答えることができる。 • 定在波を発生させる条件を正しく理解し、説明できる。 • 固定端と自由端での波の反射について、その違いを明確に説明できる。 • 音を伝える際、空気などの媒質が必要であることを説明できる。 • 音の特徴づける3つの要素について説明できる。 • うなりとはどのような現象であるかを説明できる。 • 弦楽器の音にはどのようなことが関係しているかを、これまでの学習内容を踏まえて考えることができる。 • 倍音とはどのような振動数の音であるかを説明できる。 • 気温と管楽器からの音の振動数にはどのような関係があるかを考察し、説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 身近な波の現象に興味をもち、波の発生原理や基本事項について理解しようとしている。 • 波が衝突や反射するときのようになるか、興味を持って、自分の考えを述べることができる。 • 音に関する身近な問いかけについて、自分の考えを述べるができる。 • 身近な音の現象に興味をもち、基本事項について理解しようとしている。 • 弦楽器や管楽器について、どのようにして音の高さを変えているかについて、自分の考えを述べるができる。 • 音に関する問いかけについて、自分の言葉で表そうとしている。

第4編 電気
第1章 物質と電気

- 物体の帯電するしくみについて理解できる。
- 導体・不導体、半導体の違いについて理解できる。
- 電流と電圧の基礎について理解できる。
- オームの法則、抵抗の接続、抵抗率の基礎について理解できる。
- オームの法則を実験により定量的に検証できる。また、実験から、物体の長さや断面積と抵抗値の関係について理解できる。
- ジュールの法則について理解できる。
- 電力量と電力の意味(およびその公式)について理解できる。

- オームの法則を理解し、I-V グラフより、金属の抵抗値を求めることができる。
- 家庭にきている電気の電圧・電流の値から、使用できる電気器具の数の上限を類推することができる。
- 金属の抵抗率が小さいほど電気をロスなく通しやすく、大きいほど熱として消費しやすいことを理解できる。
- 電気回路における、接続ごとの電流、電圧の大きさについて適切に理解しており、説明できる。
- 導体の抵抗値は、形状とどのような関係があるかを説明できる。
- 家庭内電源が、並列接続である理由を考察できる。
- ジュール熱について、電流と電圧とどのような関係にあるか説明できる。
- 電圧を一定にしたとき、消費電力と抵抗値は反比例の関係にあることを説明できる。
- 抵抗率、消費電力について理解しており、それをもとに考えることができる。

- 身近な静電気現象について、なぜそうなるかを述べることができる。
- 電気回路の抵抗の接続のしかたを変えたとき、抵抗に加わる電圧と流れる電流の値がどのようなかについて、主体的に考えることができる。
- 日常で使う電気を踏まえて、ジュール熱や電力について、主体的に考えることができる。

第2章 磁場と交流

- 直線電流、円形電流、ソレノイドのつくる磁場の向きを判断することができる。
- 電磁誘導の基礎を理解できる。
- 交流電圧の基本について理解できる。
- 変圧器と送電の基本について理解できる。
- 電磁波の振動数と波長の関係を理解できる。また、ラジオ放送やテレビ放送、携帯電話など、身近に使われている電磁波の周波数についても把握できる。

- 電流と磁場の関係について説明できる。
- モーターの回る原理について説明できる。
- 身近な電磁誘導の利用例について、説明できる。
- 直流と交流の違いについて理解しており、それを説明することができる。
- 送電における電力損失の理由を理解しており、説明できる。

- モーターの回転する機構について興味をもち、主体的に原理を考えることができる。
- 電流の流れる向きと磁場の向きの関係について、主体的に考えることができる。
- 直流と交流の違いや送電時の工夫について、主体的に考えることができる。

<p>第5編 物理学と社会 第1章 エネルギーの利用</p>	<ul style="list-style-type: none"> • エネルギーにはどのような種類があるか、また、身近なさまざまな事象でどのようなエネルギー変換がなされているかを理解できる。 • エネルギー資源にはどのようなものがあるか把握し、それらの長所と短所を理解している。 • 原子力発電に関連して、原子核の構成などを理解している。 • 物理基礎で学習してきた内容が、スポーツ、防災、自動車とどのように関連しているかについて理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> • ある事象に対して、どのようなエネルギー変換が行われているかを考察し、説明することができる。 • 再生可能エネルギーについて、枯渇性エネルギーとの違いを考え、説明できる。 • 火力、原子力、水力、風力の発電の共通点について説明できる。 • 私たちの暮らしを支える技術に、高校で学んだ物理学の知識がどのように活用されているかを説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 太陽電池などでどのように電気エネルギーを得ているのかを主体的に考えることができる。 • 新しいエネルギーである再生可能エネルギーに興味をもち、さまざまな発電方法における共通点を探するなど、主体的に取り組むことができる。 • スポーツや防災、自動車となどの身近な科学技術に、物理学がどのように活用されているかについて興味をもつ。
<p>1年間の評定は、1学期・2学期・3学期の年間を通じて、思考・判断・表現を重視し総合的に判断して決定します。</p>			

3. 学習の計画と評価の観点

学期	月	学習内容	学習のねらい	評価の観点			考查範囲
				知・技	思・判・表	主	
1 学期	4	第1章 運動の表し方 速度 加速度 落体の運動	<ul style="list-style-type: none"> 等速直線運動について$x-t$図と$v-t$図の特徴と、そのグラフがもたらす情報を理解する。 速度が向きをもった量であることを理解する。 直線運動における加速度の定義を理解する。 自由落下や鉛直投射などの式が書ける。 水平投射は、水平方向と鉛直方向に分解して扱えることを理解する。 	○	○	○	期末 考查
	5	第2章 運動の法則 力とそのはたらき 力のつりあい 運動の法則 摩擦を受ける運動 液体や気体から受ける力	<ul style="list-style-type: none"> 力は、向きと大きさをもったベクトル量であることを理解する。 重力、垂直抗力、摩擦力、弾性力について理解する。 力は合成や分解ができることを理解する。 運動方程式を理解する。 摩擦力を求めることができる。 圧力、水圧、浮力について理解する。 	○	○		
	6	第3章 仕事と力学的エネルギー 仕事 運動エネルギー 位置エネルギー 力学的エネルギーの保存	<ul style="list-style-type: none"> 仕事、仕事率を求めることができる。 位置エネルギー、運動エネルギーを求めることができる。 力学的エネルギー保存則を説明することができる。 	○	○		
	7	第1章 熱とエネルギー 熱と物質の状態 熱と仕事	<ul style="list-style-type: none"> 熱運動について理解できる。 熱と仕事には関係があることを理解する。 	○	○	○	
2 学期		第1章 波の性質 波と媒質の運動 波の伝わり方	<ul style="list-style-type: none"> 波について一般的にみられる現象を、重ね合わせの原理やホイヘンスの原理によって理解する。 	○	○		中間 考查
	8 9	第2章 音 音の性質 発音体の振動と共振・共鳴	<ul style="list-style-type: none"> 音は波であることを理解する。 気柱の固有振動は開端を腹、閉端を節とする定在波であることを把握する。 	○			
	10 11	第1章 物質と電気 電気の性質 電流と電気抵抗 電気エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 電気現象は、電子が主役であることを理解する。 オームの法則が成りたつことも理解する。 抵抗率についても理解する。抵抗の接続においては、直列・並列接続の特徴を理解する。 	○	○	○	
3 学期	12	第2章 磁場と交流 電流と磁場 電流と電磁波	<ul style="list-style-type: none"> 電磁誘導の現象を理解する。 電磁波には電波、赤外線、可視光線、紫外線、X線、γ線が含まれ、波の性質をもっていることを理解する。 	○	○		期末 考查
	1 2 3	第1章 エネルギーの利用 エネルギーの移り変わり エネルギー資源と発電 物理学が拓く世界	<ul style="list-style-type: none"> エネルギーには、いろいろな種類のエネルギーがあることを理解する。 身近な現象と物理基礎で学習した内容が関連していることを理解する。 	○	○	○	期末 考查

体 育

教 科	保健体育	単位数	2	学科・学年	全科2年
使用教科書	現代高等保健体育（大修館）				
副教材等	現代高等保健体育ノート（大修館）				

「 体 育 」の到達目標は

- (1) 各運動種目の特性を理解し、技術や戦術、審判法、競技会、記録会の行い方など、総合的な技能、ルールについて理解を深める。また、運動を科学的・理論的にとらえ、自身の動きや、仲間の動きを分析するための知識を身に着ける。体育理論では、運動やスポーツにおける知識や考え方を理解し、豊かなスポーツライフを実現するための知識や方法を身につける。
- (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、運動の多様性や体力の必要性について理解する。また、一人一人の違いや考えを大切にすることなどの意欲を育て、合理的、計画的な解決に向けた思考力、判断力を高め、生涯にわたって運動に親しむ態度を育てる。
- (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人ひとりの違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康、安全を確保し、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

1. 評価の観点の趣旨と方法

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・各領域における基本的な技能や攻防の仕方、合理的な動き方を身に着け、記録や技に挑戦することができる。 ・簡易化されたルールから正規のルールへと、段階的に変化させ、各種競技の正規ルールを理解して試合を行うことができる。 ・身体の動かし方や用具の操作方法などの具体的な知識と、運動の実践や生涯スポーツにつながる概念や法則などの汎用的な知識を習得している。 ・運動に関する領域と体育理論等との関連を理解し、各領域の特性や魅力を理解し、運動やスポーツが持つ価値や意義を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自他の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考、判断することができる。 ・他者に言葉や文章、動作などを用いて、自身の考えや思いを表現し、コミュニケーションを図ることができる。 ・自己や仲間の課題に対して、合理的、計画的に解決に向けた話し合いを行い、新たな課題の発見に向けた活動ができる。 ・各運動種目における技能の発揮場面において適切な技術を選択し、実践することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育授業の実施にあたり、公正に取り組む、互いに協力する、参画する、自己の責任を果たすことができる。 ・一人ひとりの違いや特徴を理解し、それらを認め合い、高め合っている。 ・意欲的に学習に取り組み、健康安全を確保した運動を実践している。 ・授業の目的、目標に対してそれらを達成しようとしている。 ・周囲と積極的に交流し、課題の解決のための意見交流を行うことができる。 ・準備や片付けに積極的に参加し、集団活動に前向きに取り組んでいる。

評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・知識理解テスト ・演技発表会 ・試合 ・競技会 ・記録会 ・授業プリント、ノート 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業プリント、ノート ・話し合い活動 ・グループ活動 ・質問紙 ・演技発表会 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・グループ活動 ・課題調査 ・意見発表 ・学習態度
-------	---	---	---

2. 評価の規準（及び年間の評定）

内容のまとめ(単元)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A：体づくり運動 ア：体ほぐしの運動 ◆集団行動、準備体操、柔軟体操、補強運動 ◆スポーツテスト	<ul style="list-style-type: none"> ・身体を動かす楽しさや心地よさを味わい、関節や筋肉の動きに着目し、可動域や力強さを高める運動を行うことができる。 ・能率的で安全な集団としての行動の仕方を実践することができる。 ・スポーツテストを通じて、自身の運動能力、身体の成長、課題を実感し、課題の克服に努力することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己や仲間の課題を把握し、合理的、計画的な解決に向けて思考、判断することができる。 ・自己や仲間の考えたことを他者に共有することができる。 ・他者に言葉や文章、動作などを用いて、自身の考えや思いを表現し、伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種運動のポイントや注意点を理解し、集団での活動に配慮しながら運動に親しもうとしている。 ・準備や片付けなどに積極的に参加している。 ・意欲的に学習に取り組み、健康安全を確保した運動を実践している。
C：陸上競技 ◆100mH走 ◆リレー競技 ア：短距離走・リレー ◆走り高跳び オ：走り高跳び	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な走法や跳び方を習得している。 ・記録測定を通して、記録の向上が見てとれる。 ・ハードルを低く素早く越えながらインターバルをリズムカルにスピードを維持して走り、タイムを短縮できる。 ・技と技の繋がりを意識して演技を構成することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己や仲間の課題を把握し、合理的、計画的な解決に向けて思考、判断することができる。 ・自己の課題を把握し、記録を高めるための工夫、改善を行う。 ・ICTなどを活用して、フォームを確認し、自己の課題を改善するための思考力、判断力を養う。 ・安全に走るために、道具の管理や設置に注意を払い実施することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種運動のポイントや注意点を理解し、集団の活動に配慮しながら運動に親しもうとしている。 ・準備や片付けなどに積極的に参加している。 ・体育授業の実施にあたり、自己の責任を果たし、一人ひとりの違いを理解し、それらを認め合おうとしている。 ・意欲的に学習に取り組み、健康安全を確保した運動を実践している。 ・個人の能力に合わせた高さや距離の工夫を行い、主体的に練習に取り組むことができる。

<p>E：球技 ◆サッカー ア：ゴール型</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・技術や戦術、作戦を理解し、個人やチームの能力の向上を目指している。 ・インフィールドの空間を作り出す動きや、空間を埋める動き方を身に着け、活用することができる。 ・安定したボール操作技術を身に着け、ゲームなどの攻防を楽しむことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己や仲間の課題を把握し、合理的、計画的な解決に向けて思考、判断することができる。 ・他者に言葉や文章、動作などを用いて、自身の考えや思いを表現し、伝えることができる。 ・自己や仲間の課題に対して、合理的、計画的に解決に向けた話し合いを行い、新たな課題の発見に向けた話し合いを実施することができる。 ・ゲームなどを通して、各運動種目の楽しさを味わいながら、個人やチームの課題を把握し、その解決に向けた練習の工夫を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種運動のポイントや注意点を理解し、集団の活動に配慮しながら運動に親しもうとしている。 ・準備や片付けなどに積極的に参加している。 ・体育授業の実施にあたり、自己の責任を果たし、一人ひとりの違いを理解し、それらを認め合おうとしている。 ・意欲的に学習に取り組み、健康安全を確保した運動を実践している。 ・個人やチームの能力に合わせた作戦の設定や協力して相手から得点を奪うための団結力を高めようとしている。
<p>E：球技 ◆バレーボール イ：ネット型</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・技術や戦術、作戦を理解し、個人やチームの能力の向上を目指している。 ・仲間と連携した、拾う、つなぐ、打つという一連の流れの再現性を高める動きを身に着け、活用することができる。 ・安定したボール操作技術を身に着け、ゲームなどの攻防を楽しむことができる。 ・ゲームの企画や運営、審判を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己や仲間の課題を把握し、合理的、計画的な解決に向けて思考、判断することができる。 ・自己や仲間の考えたことを他者に共有することができる。 ・他者に言葉や文章、動作などを用いて、自身の考えや思いを表現し、伝えることができる。 ・自己や仲間の課題に対して、合理的、計画的に解決に向けた話し合いを行い、新たな課題の発見に向けた話し合いを実施することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種運動のポイントや注意点を理解し、集団の活動に配慮しながら運動に親しもうとしている。 ・準備や片付けなどに積極的に参加している。 ・体育授業の実施にあたり、自己の責任を果たし、一人ひとりの違いを理解し、それらを認め合おうとしている。 ・意欲的に学習に取り組み、健康安全を確保した運動を実践している。 ・個人やチームの能力に合わせた作戦の設定や協力して相手から得点を奪うための団結力を高めようとしている。
<p>E：球技 ◆バドミントン イ：ネット型</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・技術や戦術、作戦を理解し、個人やチームの能力の向上を目指している。 ・相手のショットに対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己や仲間の課題を把握し、合理的、計画的な解決に向けて思考、判断することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種運動のポイントや注意点を理解し、集団の活動に配慮しながら運動に親しもうとしている。

	<p>したショットを打つという一連の流れの再現性を高める動きを身に着け、活用することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 安定したボール操作技術を身に着け、ゲームなどの攻防を楽しむことができる。 ゲームの企画や運営、審判を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己や仲間の考えたことを他者に共有することができる。 他者に言葉や文章、動作などを用いて、自身の考えや思いを表現し、伝えることができる。 自己や仲間の課題に対して、合理的、計画的に解決に向けた話し合いを行い、新たな課題の発見に向けた話し合いを実施することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 準備や片付けなどに積極的に参加している。 体育授業の実施にあたり、自己の責任を果たし、一人ひとりの違いを理解し、それらを認め合おうとしている。 意欲的に学習に取り組み、健康安全を確保した運動を実践している。 個人やチームの能力に合わせた作戦の設定や協力して相手から得点を奪うための団結力を高めようとしている。
<p>E：球技 ◆バスケットボール ア：ゴール型</p>	<ul style="list-style-type: none"> インフィールドの空間を作り出す動きや、空間を埋める動き方を身に着け、活用することができる。 安定したボール操作技術を身に着け、ゲームなどの攻防を楽しむことができる。 ゲームの企画や運営、審判を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己や仲間の課題を把握し、合理的、計画的な解決に向けて思考、判断することができる。 自己や仲間の考えたことを他者に共有することができる。 他者に言葉や文章、動作などを用いて、自身の考えや思いを表現し、伝えることができる。 自己や仲間の課題に対して、合理的、計画的な解決に向けた話し合いを行い、新たな課題の発見に向けた話し合いを実施することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種運動のポイントや注意点を理解し、集団の活動に配慮しながら運動に親しもうとしている。 準備や片付けなどに積極的に参加している。 体育授業の実施にあたり、自己の責任を果たし、一人ひとりの違いを理解し、それらを認め合おうとしている。 意欲的に学習に取り組み、健康安全を確保した運動を実践している。 個人やチームの能力に合わせた作戦の設定や協力して相手から得点を奪うための団結力を高めようとしている。
<p>E：球技 ◆ソフトボール ウ：ベースボール型</p>	<ul style="list-style-type: none"> 身体全体を使ってバットを振りぬぎ、守備スペースの空いた方向へボールを打ち返すことができる。 打球のバウンドやコースに応じてタイミングをボールを捕球し、塁上の走者に応じて投げる方向を変えることができる。 仲間の走者に合わせて、塁を進んだり戻った 	<ul style="list-style-type: none"> 自己や仲間の課題を把握し、合理的、計画的な解決に向けて思考、判断することができる。 自己や仲間の考えたことを他者に共有することができる。 他者に言葉や文章、動作などを用いて、自身の考えや思いを表現し、伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種運動のポイントや注意点を理解し、集団の活動に配慮しながら運動に親しもうとしている。 準備や片付けなどに積極的に参加している。 体育授業の実施にあたり、自己の責任を果たし、一人ひとりの違いを理解し、それらを認め合おうとしている。 意欲的に学習に取り組

	<ul style="list-style-type: none"> りすることができる。 ・ゲームの企画や運営、審判を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己や仲間の課題に対して、合理的、計画的な解決に向けた話し合いを行い、新たな課題の発見に向けた話し合いを実施することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> み、健康安全を確保した運動を実践している。 ・個人やチームの能力に合わせた作戦の設定や協力して相手から得点を奪うための団結力を高めようとしている。
<p>H：体育理論 第2章 運動・スポーツの学び方</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆スポーツにおける技能と体力 ◆スポーツにおける技術と戦術 ◆技能の上達過程と練習 ◆効果的な動きのメカニズム ◆体カトレーニング ◆運動やスポーツでの安全の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツにおける技術と技能の違いや型の違う運動の特性を理解する。 ・戦術・作戦・戦略の違いを理解し、見通しをもった練習方法を選択できる。 ・体力の構成や練習における基本原理について理解し、効果的な練習方法を実践できるようにする。 ・技能が上達するまでの3つの段階について理解し、その段階に応じて適切な練習の工夫ができるようになる。 ・動きのメカニズムを理解し、食生活や練習内容の工夫ができるようになる。 ・目的や目標に応じた練習内容（運動強度や時間）の選択と計画を立てることができるようになる。 ・運動中に起きるケガや事故について理解し、未然に防ぐための具体的な予防策を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの技術、戦術、戦略について学び、上達のための課程を理解できている。 ・人間の身体の効果的な動きのメカニズムについて理解し、実践方法を意見交流することができる。 ・スポーツへの多様な関わりの仕方について理解し、将来的にどのように健康を保持増進し、運動に親しんでいくか、展望を持つことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に学習に取り組み、スポーツの特徴や特性について理解しようとしている。 ・新体力テストの結果を受けて自身の課題や今後の目標を立てることができる。 ・意欲的に学習に取り組み、体力や技能、トレーニング方法について理解しようとしている。 ・「する・見る・支える」等の様々なスポーツへの向き合い方を理解しようとしている。
<ul style="list-style-type: none"> ●体育授業に際しては、知識・技能に関する評価観点を重視して評価を行っていく。また、安全配慮に関する姿勢やルール等を守り、他者と共にスポーツを楽しもうとするなどの行動面に関しても評価の対象とする。 ●知識・技能に関しては、年間を通じてスキルテストや各種演技、実演を通して技能の評価を行っていく。知識面に関しては小テストなどを通して評価する。 ●思考・判断・表現に関しては、各単元で他者との交流やチーム単位の活動を通して意見交流などを行い、作戦、戦術、練習方法などを通して評価する。 ●主体的に学習に取り組む態度については、準備や片付け、学習に取り組む様子などを通して、総合的に判断し評価する。 			

3. 学習の計画と評価の観点

学期	月	学習内容	学習のねらい	評価の観点			調査範囲	
				知・技	思・判・表	主		
1 学期	4 月	◆R8年度シラバス ◆R8年度授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション。 ・授業の実施方法について確認する。 ・授業実施にあたり、用具や施設の利用方法について確認する。 				○	
		A：体づくり運動 ◆体づくり運動 ア：体ほぐしの運動 ◆集団行動、準備体操、柔軟体操、補強運動 ◆スポーツテスト	<ul style="list-style-type: none"> ・身体を動かす楽しさや心地よさを味わい健康の保持増進や体力の向上を目指した運動を実施する。 ・仲間との活動を通して、交流を深める。 ・関節や筋肉の動きに着目し、可動域や力強さを高める運動を実施する。 ・スポーツテストを通して、自身の運動能力、身体の成長を確認、実感する。 ・能率的で安全な集団としての行動の仕方を身に着ける。 		○	○		
	5 月	E：球技 ◆バレーボール イ：ネット型	<ul style="list-style-type: none"> ・技術や戦術、作戦を理解し、個人やチームの能力の向上を目指す。 ・ネット型競技では、仲間と連携した、拾う、つなぐ、打つという一連の流れの再現性を高める動きを身に着ける。 ・安定したボール操作技術を身に着け、ゲームなどの攻防を楽しむ。 ・ゲームなどを通して、その種目の楽しさを味わいながら、個人やチームの課題を把握し、その解決に向けた練習の工夫を行う。 ・個人やチームの能力に合わせた作戦の設定や協力して相手から得点を奪うための団結力を養う。 ・ゲームの企画や運営、審判を行う。 	○	○	○		
		6 月	E：球技 ◆ソフトボール ウ：ベースボール型	<ul style="list-style-type: none"> ・技術や戦術、作戦を理解し、個人やチームの能力の向上を目指す。 ・ベースボール型競技では、状況に応じたバット操作と守備、安定したボール操作をしながら攻防を楽しむ。 ・ゲームなどを通して、その種目の楽しさを味わいながら、個人やチームの課題を把握し、その解決に向けた練習の工夫を行う。 ・個人やチームの能力に合わせた作戦の設定や協力して相手から得点を奪うための団結力を養う。 ・ゲームの企画や運営、審判を行う。 	○	○	○	
			7 月		<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの企画や運営、審判を行う。 			

2 学 期	8 月	H：体育理論 第2章 運動・スポーツの学び方 ◆スポーツにおける技能と体力 ◆スポーツにおける技術と戦術	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツにおける技術と技能の違いや型の違う運動の特性を理解する。 ・戦術・作戦・戦略の違いを理解し、見通しをもった練習方法を選択できる。 ・体力の構成や練習における基本原理について理解し、効果的な練習方法を実践できるようにする。 	○	○	○
	9 月	E：球技 ◆サッカー ア：ゴール型 <女子>	<ul style="list-style-type: none"> ・技術や戦術、作戦を理解し、個人やチームの能力の向上を目指す。 ・ゴール型競技では、インフィールドの空間を作り出す動きや、空間を埋める動き方を身に着ける。 ・ネット型競技では、仲間と連携した、捨う、つなぐ、打つという一連の流れの再現性を高める動きを身に着ける。 ・安定したボール操作技術を身に着け、ゲームなどの攻防を楽しむ。 	○	○	○
	10 月	◆バドミントン イ：ネット型	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームなどを通して、その種目の楽しさを味わいながら、個人やチームの課題を把握し、その解決に向けた練習の工夫を行う。 ・個人やチームの能力に合わせた作戦の設定や協力して相手から得点を奪うための団結力を養う。 ・ゲームの企画や運営、審判を行う。 	○	○	○
	11 月	C：陸上競技 ◆100mH走 ◆リレー競技 ア：短距離走・リレー ◆走り高跳び オ：走り高跳び	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題を把握し、記録を高めるための走法や跳び方を工夫、改善を行う。 ・ICTなどを活用して、フォームを確認し、自己の課題を理解、改善するための思考力、判断力を養う。 ・安全に練習をするために、仲間で協力して道具の管理や設置し、難易度と能力が伴っているか総合的に判断できるようになる。 	○	○	○
3 学 期	12 月	H：体育理論 第2章 運動・スポーツの学び方 ◆技能の上達過程と練習 ◆効果的な動きのメカニズム	<ul style="list-style-type: none"> ・技能が上達するまでの3つの段階について理解し、その段階に応じて適切な練習の工夫ができるようになる。 ・動きのメカニズムを理解し、食生活や練習内容の工夫ができるようになる。 	○	○	○

	1月	E：球技 ◆バスケットボール ア：ゴール型	<ul style="list-style-type: none"> ・技術や戦術、作戦を理解し、個人やチームの能力の向上を目指す。 ・ゴール型競技では、インフィールドの空間を作り出す動きや、空間を埋める動き方を身に着ける。 ・安定したボール操作技術を身に着け、ゲームなどの攻防を楽しむ。 ・ゲームなどを通して、その種目の楽しさを味わいながら、個人やチームの課題を把握し、その解決に向けた練習の工夫を行う。 ・個人やチームの能力に合わせた作戦の設定や協力して相手から得点を奪うための団結力を養う。 ・ゲームの企画や運営、審判を行う。 	○	○	○	
	2月・3月	H：体育理論 第2章 運動・スポーツの学び方 ◆体カトレーニング ◆運動やスポーツでの安全の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や目標に応じた練習内容（運動強度や時間）の選択と計画を立てることができるようになる。 ・運動中に起きるケガや事故について理解し、未然に防ぐための具体的な予防策を学ぶ。 	○	○	○	

保 健

教 科	保健体育	単位数	1	学科・学年	全科2年
使用教科書	現代高等保健体育（大修館）				
副教材等	現代高等保健体育ノート（大修館）				

「 保 健 」の到達目標は

- (1) 健康・性・環境についての基礎的な事項を理解し、個人生活や社会生活が抱えている身近な健康問題について知識を深める。また、生涯における知識や環境問題に対する対策など、健康の保持増進に向けた様々な取り組みや対策について理解を深め、実生活に活かす実践力を高める。
- (2) 個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関する健康課題について理解を深め、グループ討議などを通して様々な対策や解決策に関する意見を交流する。また、日常生活において適切な意志決定、行動選択を行うための思考力、判断力、表現力を養う。
- (3) 健康や安全に関心を持ち、健康で安全な生活を実践するための資質や能力を身に着ける。また意欲的に学習に取り組み、新たな発見や気づきが得られるように前向きに授業に取り組む態度を養う。

1. 評価の観点の趣旨と方法

	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・保健に関係する事象について学習した方法や技術を用いて、科学的に考えることができるか。 ・健康・安全の意義を理解するとともに、現代社会と健康、生涯を通じる健康及び社会生活と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に着けているか。 ・保健授業で扱う様々な保健的な技術を理解し、実践することができる。 ・授業内容を理解し、小テストや考査等で成果をあげることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関する意志決定、行動選択、課題の解決を目指した思考力、判断力を身に着けている。 ・グループ学習などを通して他者と意見を交流し、新しい発見や課題解決のためのコミュニケーション能力を身に着けている。 ・自身の考えを言語表現だけではなく、ICT 機器などを利用して適切に表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関心を持ち、健康で安全な生活を実践するため、意欲的に学習に取り組んでいる。 ・授業に前向きに取り組み、課題や授業内容について積極的に学ぶ姿勢がある。 ・現代社会における健康課題について様々な視点から判断し、授業内容と関連付けて学習に取り組むことができる。 ・意見交流で積極的に発言している。 ・単元別のレポート等で見やすい資料作りに積極的に励む。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業観察 ・提出物 ・ノート確認 ・実技、実演 ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業観察 ・提出物 ・ノート確認 ・グループ学習 ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業観察 ・提出物 ・ノート確認 ・グループ学習 ・総括評価

2. 評価の規準（及び年間の評定）

内容のまとめ(単元)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>第3章 ＜生涯を通じる健康＞</p> <p>1：ライフステージと健康 2：思春期と健康 3：性意識と性行動の選択 4：妊娠・出産と健康 5：避妊法と人工妊娠中絶 6：結婚生活と健康 7：中高年期と健康 8：働くことと健康 9：労働災害と健康 10：健康的な職業生活</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 性に関する基本的な知識を身に付けることができる。 • 結婚や妊娠といった家族計画を自己のことに捉え、将来を見据えた知識を身に付けることができる。 • 加齢に伴う身体的・社会的変化について考えることができる。 • 労働における権利や意義について理解し、実生活に活かすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 一生涯で経験する各ステージの健康課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し、判断するとともに、それらを表現することができる。 • 事例を参考に、自他の健康の保持増進のための意思決定、行動選択の方法について意見を交流することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関心を持ち、健康で安全な生活を実践するため、意欲的に学習に取り組んでいる。 • 授業に前向きに取り組み、課題や授業内容について積極的に学ぶ姿勢がある。 • 生涯を通じた健康課題について様々な視点から判断し、授業内容と関連付けて学習に取り組むことができる。 • 意見交流で積極的に発言している。
<p>第4章 ＜健康を支える環境づくり＞</p> <p>1：大気汚染と健康 2：水質汚濁・土壌汚染と健康 3：環境と健康にかかわる対策 4：ごみの処理と上下水道の整備 5：食品の安全性 6：食品衛生にかかわる活動 7：保健サービスとその活用 8：医療サービスとその活用 9：医薬品の制度とその活用 10：さまざまな保健活動や社会的対策 11：健康に関する環境づくりと社会参加</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 大気、土壌、水質が健康と密接に関係していることが理解し、自己の果たすべき役割を考えることができる。 • 食生活の大切さや食品選択における知識や実生活に活かすことができる。 • 医薬品や医療・保健制度について理解し、健康の保持増進のために行動選択ができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 環境や医療、食品と健康について課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し、判断するとともに、それらを表現することができる。 • 事例を参考に、自他の健康の保持増進のための意思決定、行動選択の方法について意見を交流することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関心を持ち、健康で安全な生活を実践するため、意欲的に学習に取り組んでいる。 • 授業に前向きに取り組み、課題や授業内容について積極的に学ぶ姿勢がある。 • 健康を支える環境課題について様々な視点から判断し、授業内容と関連付けて学習に取り組むことができる。 • 意見交流で積極的に発言している。

- 保健授業に際しては、定期考査を始めとする知識を評価する機会及び環境問題に関するレポート等の技能を評価する機会を重視して評価する。また、問題解決型の授業の取り組みの様子について、意見発表の機会や学習プリントへの記載内容についても評価の対象とする。
- 知識・技能に関しては、年間4回の定期考査と小テスト、応急手当に関する実技などを加味し、総合的に判断し評価する。
- 思考力・判断力・表現力に関しては、問題や演習、グループ学習などの活動を通して他者とのコミュニケーションを図り、新たな発見や課題解決の方法などの気づきについて、ノートやプリント等の文章表現や発表の様子を加味し、総合的に判断し評価する。
- 主体的に学習に取り組む態度に関しては、授業中の取り組みの様子や提出物、出席、グループ学習の様子、問題演習の取り組み姿勢などを加味し、総合的に判断し評価する。

3. 学習の計画と評価の観点

学期	月	学習内容	学習のねらい	評価の観点			考査範囲
				知・技	思・判・表	主	
1学期	4月	◆保健の授業について (まえがき)	・保健学習の意義と学習の見通しをもたせる。			○	1学期期末
		第3章 <生涯を通じる健康> ◆1：ライフステージと健康	・それぞれのライフステージの特徴を知る。 ・各ライフステージにおける健康課題やその支援内容について理解する。	○	○	○	
		第3章 <生涯を通じる健康> ◆2：思春期と健康	・思春期における身体面の成長や精神的な成長を発達の観点から理解する。 ・思春期特有の悩みや不安、困難について理解する。	○		○	1学期期末
	5月	第3章 <生涯を通じる健康> ◆3：性意識と性行動の選択	・性意識の男女差について学び、正しい性情報を身に着け、性に関する行動について正しい選択ができるようになる。	○	○	○	
		第3章 <生涯を通じる健康> ◆4：妊娠・出産と健康	・妊娠から出産までの過程における健康課題について学び、それらの時期に活用できる母子保健サービスについて理解する。 ・母子健康手帳を通して、自分が生まれてからどのように成長を重ねてきたのか振り返る。 ・妊娠、出産において必要なことにはどんなことがあるか、グループで意見を出し合い、準備の大切さや育てることの難しさを学ぶ。	○		○	
	6月	第3章 <生涯を通じる健康> ◆5：避妊法と人工妊娠中絶	・家族計画の意義と適切な避妊方法について理解する。 ・人工妊娠中絶が女性の心身に及ぼす影響について理解する。	○		○	
		第3章 <生涯を通じる健康> ◆6：結婚生活と健康	・心身の発達と結婚生活の関係について理解し、結婚生活を健康的に送るために必要な考え方や行動について学ぶ。	○		○	

		第3章 ＜生涯を通じる健康＞ ◆7：中高年期と健康	<ul style="list-style-type: none"> 年齢を重ねることに伴った心身の変化について学び、健康的な生活と健やかな人生の歩み方について理解する。 すべての人が安全に暮らすための取り組みについて、事例を含めて理解する。 	○		○	
		◇定期考査（1学期期末考査）	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習を振り返り、知識の定着を確認する。 	○	○		
2 学 期	7 ・ 8 月	第3章 ＜生涯を通じる健康＞ ◆8：働くことと健康	<ul style="list-style-type: none"> 労働に関する様々な取り決めや労働災害時の対応について学ぶ。 労働に関する新しい健康課題について学び、その対処方法について理解する。 	○		○	2 学 期 中 間
		第3章 ＜生涯を通じる健康＞ ◆9：労働災害と健康	<ul style="list-style-type: none"> 職場における健康づくりに向けた取り組みについて理解する。 日常生活における余暇の使い方や労働基準法について理解する。 	○		○	
		第3章 ＜生涯を通じる健康＞ ◆10：健康的な職業生活	<ul style="list-style-type: none"> 職場で行うことができる健康増進対策や余暇の活用の仕方について理解を深める。 健康診断の重要性や、心の健康を保つための取り組みについて理解する。 	○	○	○	
9 月		第4章 ＜健康を支える環境づくり＞ ◆1：大気汚染と健康	<ul style="list-style-type: none"> 大気汚染の原因とそれによって起こる地球規模の環境問題について学び、PM2.5などの浮遊粒子状物質が引き起こす現象や病症について理解する。 	○		○	
		第4章 ＜健康を支える環境づくり＞ ◆2：水質汚濁・土壌汚染と健康	<ul style="list-style-type: none"> 水質汚濁や土壌汚染の原因とそれによって起こる健康影響について正しい知識を身に着ける。 日本でかつて起きた公害について学び、グループワーク等でそれらを二度と起こさないためにはどのように生活するべきか考える。 	○		○	
		◇定期考査（2学期中間考査）	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習を振り返り、知識の定着を確認する。 	○	○		
10 月		第4章 ＜健康を支える環境づくり＞ ◆3：環境と健康にかかわる対策	<ul style="list-style-type: none"> 現代社会における環境汚染の特徴について学び、それに対する様々な取り組みや法律についての知識を高める。 	○		○	2 学 期 期 末
		第4章 ＜健康を支える環境づくり＞ ◆4：ごみの処理と上下水道の整備	<ul style="list-style-type: none"> ごみの処理の現状や上下水道の整備の状況について学び、安全で質の良い水の供給や大気汚染防止のための方策について理解する。 	○		○	
11 月		第4章 ＜健康を支える環境づくり＞ ◆5：食品の安全性	<ul style="list-style-type: none"> 行政や生産、製造者による食の安全性の確保の取り組みを行うことで、私たち消費者が安心して食文化を楽しむことができることを理解する。 	○	○	○	
		第4章 ＜健康を支える環境づくり＞ ◆6：食品衛生にかかわる活動	<ul style="list-style-type: none"> 食品の安全を守るための食品表示や食中毒の防止に向けた取り組みについて理解する。 環境保護を目的とした、循環社会の形成に向けた取り組みについて理解する。 	○		○	

	12月	第4章 ＜健康を支える環境づくり＞ ◆7：保健サービスとその活用	<ul style="list-style-type: none"> 保健行政のそれぞれの役割について理解する。 生涯を通じて継続的に受けることができる保健サービスについて学び、社会生活に生きる知識を身に着ける。 	○	○	○	
		◇定期考査（2学期期末考査）	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習を振り返り、知識の定着を確認する。 	○	○		
3学期	1月	第4章 ＜健康を支える環境づくり＞ ◆8：医療サービスとその活用	<ul style="list-style-type: none"> 様々な医療機関の役割について理解し、医療サービスを受けるときの留意点について学ぶ。 処方箋や医薬分業など医療ミスが起こらないようにすることを目的とした日本の医療機関の取り組みについて知識を高める。 	○		○	学年末考査
		第4章 ＜健康を支える環境づくり＞ ◆9：医薬品の制度とその活用	<ul style="list-style-type: none"> 医薬品の正しい使用法について学び、安全性を守るための取り組みについて理解する。 新薬やジェネリック医薬品などの医薬品に関する新しい知識を身につけ、社会生活に生きる力を身に着ける。 	○		○	
	2・3月	第4章 ＜健康を支える環境づくり＞ ◆10：さまざまな保健活動や社会的対策	<ul style="list-style-type: none"> 民間機関、国際機関が実施している様々な保健活動について学び、ヘルスプロモーションの考えに基づいた健康づくりの理解を深める。 	○	○	○	
		第4章 ＜健康を支える環境づくり＞ ◆11：健康に関する環境づくりと社会参加	<ul style="list-style-type: none"> ヘルスプロモーションの考えに基づいた健康づくりの理解を深めて、「健康」の視点で社会をデザインできるようにする。 	○		○	
	◇定期考査（学年末考査）	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習を振り返り、知識の定着を確認する。 	○	○			

英語コミュニケーションⅡ

教科	外国語（英語）	単位数	2	学科・学年	全科2年
使用教科書	All Aboard! English Communication Ⅱ（東京書籍）				
副教材等	英単語VALUE1000（数研出版）				

「英語コミュニケーションⅡ」の到達目標は

日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、

- (1) 必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。
- (2) 必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。
- (3) 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。
- (4) 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。
- (5) 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。

1. 評価の観点の趣旨と方法

	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	<ol style="list-style-type: none"> ① 日常的・社会的な話題について聞き取ったり、読み取ったりするため、また相手に伝えるための語句・文法を理解している。 ② 日常的・社会的な話題について聞き取ったり読み取ったりすることができる。 ③ 日常的・社会的な話題について情報や考え、気持ちなどを話したり書いたりして伝えることができる。 ④ 日常的・社会的な話題について、話して伝え合うことができる。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 自分の考えを発表するため、手紙に書くため、また、相手と意見交換するために日常的・社会的な話題について話し手・書き手の意図を把握している。 ② 自分の考えを発表するため、手紙に書くため、また、相手と意見交換するために日常的・社会的な話題について話したり、書いたりして伝えている。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 自分の考えを発表するため、手紙に書くため、また、相手と意見交換するために日常的・社会的な話題について話し手・書き手の意図を把握しようとしている。 ② 自分の考えを発表するため、手紙に書くため、また、相手と意見交換するために日常的・社会的な話題について話したり、書いたりして伝えようとしている。
評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> ① 授業中の音読・言語活動への取り組み状況を観察する。 ② 本文の内容について読んだり、聞いたりしたことの理解度を量る定期考査や小テストを実施する。 ③ 語句や文法事項及び表現の理解度を量る筆記および口頭によるテストを実施する。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 授業中の音読・言語活動を教員または生徒同士が評価する。 ② 本文の内容について理解しているか、また、自分の考えを英語で表現できるかを量る定期考査や口頭テストを実施する。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 授業中の音読・言語活動を教員または生徒同士が評価する。 ② 課題の内容や提出状況を評価する。

2. 評価の規準（及び年間の評定）

内容のまとめ(単元)	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>Pre-Lesson My Plans for This Year 今年やってみたいこと</p>	<p>[知識]to 不定詞や助動詞 will などを用いられた文の形・意味を理解している。 [技能]今年やってみたいことを、to 不定詞や助動詞 will などを用いて、相手に伝える技能を身につけている。</p>	<p>今年やってみたいことを整理して、理解しやすいように相手に伝えている。</p>	<p>今年やってみたいことを整理して、理解しやすいように相手に伝えようとしている。</p>
<p>Lesson 1 A Colorful Island ブルーノ島 Let's Listen 1 ホテルにチェックイン Communication 1 病院で診察</p>	<p>[知識]関係代名詞 what を用いた文の形・意味を理解している。 海外の観光地について学び、海外で行ってみたい場所やそこでやりたいことについて調べた事柄を整理・理解している。 ホテルのチェックインや受診の際に必要な表現を理解している。 [技能]関係代名詞 what の理解をもとに、海外の観光地について学び、海外で行ってみたい場所やそこでやりたいことについて、自分で調べた事柄を用いて、情報や考え、気持ちを話して伝え合う技能を身につけている。 ホテルのチェックインや病院で受診するためのやりとりの技能を身につけている。</p>	<p>海外の観光地について学び、海外で行ってみたい場所やそこでやりたいことについて、情報や考え、気持ちなどを話したり書いたりして伝え合っている。 ホテルにチェックインする状況で、必要な情報を聞き取って、それを整理することができる。 病院で診察を受ける状況で、必要な情報を伝えたり聞き取ったりして、相手が理解しやすいように説明している。</p>	<p>海外の観光地に関する文章について、海外で行ってみたい場所やそこでやりたいことについて、情報や考え、気持ちなどを話したり書いたりして伝え合おうとしている。 ホテルにチェックインする状況で、必要な情報を聞き取って、それを整理しようとしている。 病院で診察を受ける状況で、必要な情報を伝えたり聞き取ったりして、相手が理解しやすいように説明しようとしている。</p>
<p>Lesson 2 With the Beatles サムのリクエスト Word Box 1 Feelings and Emotions</p>	<p>[知識]比較表現〈more〉〈the most〉を用いた文の形・意味を理解している。また、音楽バンドについて学び、好きな人物について調べた事柄を整理・理解している。 感覚や感情を表す単語や表現を用いた文の形・意味を理解している。 [技能]比較表現〈more〉〈the most〉の理解をもとに、音楽バンドについ</p>	<p>音楽バンドに関して書かれた対話について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、好きな人物について、好きな理由などを話したり書いたりして伝え合っている。 感覚や感情を表す単語や表現を用いて、状況と自分の感情について、的確に書いて伝えている。</p>	<p>音楽バンドに関して書かれた対話について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、好きな人物について、好きな理由などを話したり書いたりして伝え合おうとしている。 感覚や感情を表す単語や表現を用いて、状況と自分の感情について、的確に書いて伝えようとしている。</p>

	<p>て学び、好きな人物について自分で調べた事柄を用いて、理由などを話して伝え合う技能を身につけている。</p> <p>感覚や感情を表す単語や表現を用いて、状況と自分の感情について、書いて伝える技能を身につけている。</p>		
<p>Lesson 3 Wild Men ワイルドマンの世界 文法のまとめ 1</p>	<p>[知識] it を用いた文〈It is … (for —) to ~〉〈It is … that ~〉の形・意味を理解している。</p> <p>また、「ワイルドマン」について学び、身近な行事について調べた事柄を整理・理解している。</p> <p>「関係代名詞」「比較表現」「it の用法」を用いた文の形・意味・用法を理解している。</p> <p>[技能] it を用いた文〈It is … (for —) to ~〉〈It is … that ~〉の理解をもとに、「ワイルドマン」について学び、身近な行事について自分で調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話して伝え合う技能を身につけている。</p> <p>「関係代名詞」「比較表現」「it の用法」を用いて、相手とコミュニケーションができる技能を身につけている。</p>	<p>「ワイルドマン」に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、身近な行事について、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合っている。</p> <p>「関係代名詞」「比較表現」「it の用法」を用いて、相手とコミュニケーションができています。</p>	<p>「ワイルドマン」に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、身近な行事について、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合おうとしている。</p> <p>「関係代名詞」「比較表現」「it の用法」を用いて、相手とコミュニケーションをしようとしている。</p>
<p>Lesson 4 Little Hero ハチドリのお話 Let's Listen 2 世界自然遺産 Extra Target 1 ずっと…し続けています Word Box 2 A Day in English : Part 1</p>	<p>[知識] 間接疑問文の形・意味を理解している。</p> <p>好きな物語について調べた事柄を整理・理解している。</p> <p>ある地域の特徴や位置を説明する文の形・意味を理解している。</p> <p>現在完了進行形〈have + been + 動詞の-ing 形〉を用いた文の形・意味を理解している。</p> <p>自分の普段の生活でよく使われる語句や表現</p>	<p>ハチドリを紹介する記事とハチドリを主人公にして書かれた物語の文章について学び、好きな物語について考えや理由などを話したり書いたりして伝え合っている。</p> <p>ある地域の特徴や位置についての説明を聞く状況で、必要な情報を聞き取り、整理することができている。</p> <p>「ずっと…し続けてい</p>	<p>ハチドリを紹介する記事とハチドリを主人公にして書かれた物語の文章について学び、好きな物語について考えや理由などを話したり書いたりして伝え合おうとしている。</p> <p>ある地域の特徴や位置についての説明を聞く状況で、必要な情報を聞き取り、整理しようとしている。</p> <p>「ずっと…し続けてい</p>

	<p>を用いた文の形・意味を理解している。</p> <p>[技能] 間接疑問文の理解をもとに、物語について学んだり、自分で調べた事柄を用いて、考えや理由などを話して伝え合ったりする技能を身につけている。</p> <p>ある地域の特徴や位置を説明する文を聞いて、それらの要素を正しく判断できる技能を身につけている。</p> <p>「ずっと…し続けています」という文を、「現在完了進行形」を用いて、的確に伝える技能を身につけている。</p> <p>自分の普段の生活について、よく使われる語句や表現を用いて書き、それを発表する技能を身につけている。</p>	<p>ます」という文を、「現在完了進行形」を用いて的確に伝えている。</p> <p>自分の普段の生活について、よく使われる語句や表現を用いて書き、適切な発表を行っている。</p>	<p>ます」という文を、「現在完了進行形」を用いて的確に伝えようとしている。</p> <p>自分の普段の生活について、よく使われる語句や表現を用いて書き、適切な発表を行おうとしている。</p>
<p>Lesson 5 Special Makeup in Kabuki 歌舞伎メイクの物語 Reading 1 Mujina 文法のまとめ 2</p>	<p>[知識] to 不定詞を含む表現を用いた文の形・意味を理解している。</p> <p>歌舞伎と隈取について学び、日本の伝統文化について調べた事柄を整理・理解している。</p> <p>服装についての対話でよく使われる語句や表現を用いた文の形・意味を理解している。</p> <p>英語で書かれた Mujina の内容を理解している。</p> <p>「間接疑問文」「to 不定詞を含む表現」「動詞の形と『時』の関係」を用いた文の形・意味・用法を理解している。</p> <p>[技能] to 不定詞を含む表現の理解をもとに、歌舞伎と隈取について学んだり、日本の伝統文化について自分で調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話して伝え合う技能を身につけている。</p> <p>自分の好きな服装について、衣服やアクセサリ</p>	<p>歌舞伎と隈取について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、日本の伝統文化について、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合っている。</p> <p>自分の好きな服装について、衣服やアクセサリなどを表す語句を用いて、的確な対話をしている。</p> <p>英語で書かれた Mujina の内容に関する問いに答えている。また、情景や登場人物の心情が聞いている相手に伝わりやすいように読む要点を捉えている。</p> <p>「間接疑問文」「to 不定詞を含む表現」「動詞の形と『時』の関係」を用いて、相手とコミュニケーションができています。</p>	<p>歌舞伎と隈取について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、日本の伝統文化について、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合おうとしている。</p> <p>自分の好きな服装について、衣服やアクセサリなどを表す語句を用いて、的確な対話をしようとしている。</p> <p>英語で書かれた Mujina の内容に関する問いに答えようとしている。また、情景や登場人物の心情が聞いている相手に伝わりやすいように読む要点を捉えようとしている。</p> <p>「間接疑問文」「to 不定詞を含む表現」「動詞の形と『時』の関係」を用いて、相手とコミュニケーションをしようとしている。</p>

	<p>ーなどを表す語句を用いて、対話する技能を身につけている。</p> <p>英語で書かれた Mujina の内容を読み取る技能を身につけている。</p> <p>「間接疑問文」「to 不定詞を含む表現」「動詞の形と『時』の関係」を用いて、相手とコミュニケーションできる技能を身につけている。</p>		
<p>Lesson 6 Seeds for Future Generations 伝統野菜を未来につなぐ</p>	<p>[知識]動詞の目的語になる if 節を用いた文の形・意味を理解している。</p> <p>京野菜について学び、京野菜のポスターに書かれた事柄や地元の有名な場所やものについて調べた事柄を整理・理解している。</p> <p>[技能]動詞の目的語になる if 節の理解をもとに、京野菜について学び、地元の有名な場所やものについて自分で調べた事柄を用いて、地元の有名な場所やものについて紹介するポスターを作成し、考えや情報などを話して伝え合う技能を身につけている。</p>	<p>伝統野菜に関して書かれた文章について学び、考えや情報などを話したり書いたりして伝え合っている。</p>	<p>伝統野菜に関して書かれた文章について学び、考えや情報などを話したり書いたりして伝え合おうとしている。</p>
<p>1年間の評定は、1学期・2学期・3学期の年間を通じて、思考・判断・表現を重視し総合的に判断して決定します。</p>			

3. 学習の計画と評価の観点

学期	月	学習内容	学習のねらい	評価の観点			考查範囲
				知・技	思・判・表	主	
1 学期	4	Pre-Lesson My Plans for This Year	不定詞や、助動詞の使い方を理解し活用しながら、今年やってみたいことを整理して、相手に伝えることができる。	○	○	○	中間 考查
	5	Lesson 1 A Colorful Island	関係代名詞whatを用いた文の形・意味を理解することができる。 海外の観光地について学び、海外で行ってみたい場所やそこでやりたいことについて、情報や考え、気持ちなどを話したり書いたりして伝え合うことができる。	○	○	○	
	6	Let's Listen 1 Communication 1	ホテルにチェックインする状況で、必要な情報を聞き取って、それを整理することができる。 病院で必要な情報を伝えたり聞き取ったりして、相手が理解しやすいように説明することができる。	○	○	○	期末 考查

2 学 期	7	Lesson 2 With the Beatles	比較表現〈more〉〈the most〉を用いた文の形・意味を理解することができる。 音楽バンドに関して書かれた対話について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、好きな人物について、好きな理由などを話したり書いたりして伝え合うことができる。	○	○	○	中間 考 査
	8	Word Box 1 Feelings and Emotions	感覚や感情を表す単語や表現を用いて、状況と自分の感情について、的確に書いて伝えることができる。	○	○	○	
	9	Lesson 3 Wild Men	itを用いた文〈It is … (for —) to ~〉〈It is … that ~〉の形・意味を理解することができる。 「ワイルドマン」に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、身近な行事について、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合うことができる。	○	○	○	
	10	文法のまとめ 1 Lesson 4 Little Hero	「関係代名詞」「比較表現」「itの用法」を用いて、相手とコミュニケーションできる技能を身につけることができる。 間接疑問文の形・意味を理解している。好きな物語について調べた事柄を整理・理解することができる。 ハチドリを紹介する記事とハチドリを主人公にして書かれた物語の文章について学び、好きな物語について考えや理由などを話したり書いたりして伝え合することができる。	○	○	○	期 末 考 査
	11	Let's Listen 2	ある地域の特徴や位置を説明する文の形・意味を理解している。	○	○	○	
	3 学 期	12	Extra Target 1 Word Box 2 A Day in English: Part 1	現在完了進行形〈have+been+動詞の-ing形〉を用いた文の形・意味を理解している。 自分の普段の生活について、よく使われる語句や表現を用いて書き、適切な発表をすることができる。	○	○	○
1		Lesson 5 Special Makeup in Kabuki	to不定詞を含む表現を用いた文の形・意味を理解している。 歌舞伎と隈取について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、日本の伝統文化について、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合うことができる。 自分の好きな服装について、衣服やアクセサリーなどを表す語句を用いて、的確な対話をすることができる。	○	○	○	
2		Reading 1 Mujina 文法のまとめ 2	英語で書かれたMujinaの内容に関する問いに答えている。また、情景や登場人物の心情が聞いている相手に伝わりやすいように読む要点を捉えている。 「間接疑問文」「to不定詞を含む表現」「動詞の形と『時』の関係」を用いて、相手とコミュニケーションができていく。	○	○	○	
	3	Lesson 6 Seeds for Future Generations	動詞の目的語になるif節を用いた文の形・意味を理解することができる。 伝統野菜に関して書かれた文章について学び、考えや情報などを話したり書いたりして伝え合うことができる。	○	○	○	

家庭基礎

教 科	家庭科	単位数	2	学科・学年	2年 全科
使用教科書	家庭基礎 ～自立・共生・創造～ (東京書籍)				
副教材等					

「家庭基礎」の到達目標は

- (1)家庭生活に関する様々な課題を見つけ、自分の生活と向き合い、これからの人生を生きる上で必要な広範囲の知識と技術を身につける。
- (2)人生100年時代の将来まで見通した生き方を考え、豊かで充実した暮らしを実現可能にするための課題を設定し、様々な視点から興味関心を深め、解決へと導く力を養う。
- (3)自分の周りから地域社会、さらに世界へと視野を広げ、持続可能な社会をつくる暮らしの担い手となるために、主体的に取り組み創造しようとする実践的な態度を養う。

1. 評価の観点の趣旨と方法

	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の 観点の 趣旨	<ul style="list-style-type: none"> • ひとの一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境など自立した生活者として生活を営むために必要な基礎的なことを理解している。また、それらに関する技術を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 家族や家庭、社会における生活の中から問題を見出して課題を設定することができる。また、課題解決のために生活を科学的に探究して、それを根拠に生活を工夫し創造できる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 自立した生活者に必要な知識・技能を身につけ、地域社会に参画し、共に支えあう社会の実現にむけて生活を創造し、主体的に実践しようとしている。
評価の 方法	<ul style="list-style-type: none"> • 年3回の定期考査 • 休業中に出題される課題及びその内容 • 製作課題の出来栄 • 単元ごとの小テスト • ホームプロジェクトの内容 	<ul style="list-style-type: none"> • 年3回の定期考査 • 長期休業中に出題される課題及びその内容 • 製作課題の作品に対する創意工夫とその内容 • 配布プリントの内容 • 実験実習に関する考察のレポート • ホームプロジェクトの発表 	<ul style="list-style-type: none"> • 年3回の定期考査 • 授業の出席状況 • プリントの提出状況とその内容 • 授業や実習に取り組む姿勢やその内容 • ルーブリックにより単元に対する理解度や積極性を知る

2. 評価の規準（及び年間の評定）

内容のまとめ(単元)	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1章 生涯を見通す	生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉えることができる。	家庭科の学習がキャリア形成につながることを理解できる。	自分や家族、地域社会に関心を持ち、主体的に取り組む態度が見られる。
第2章 人生をつくる	生涯発達の視点から各ライフステージの特徴と課題について理解できる。	生涯を通して自分をみつめ、自己実現のための目標が表現できる。	社会環境が変化する中で、社会と協力・協働して創造しようとする。
第3章 子どもと共に育つ	子どもの育つ力を知り、社会全体で子育てを支援する必要性を認識する。	子どもを育むための役割を考え、課題を見出し、解決の糸口を探す。	命に対する責任や子育てにおける課題に関心を持ち、考える。
第4章 超高齢社会を共に生きる	日本の超高齢社会の現状と課題、高齢期の心身の特徴や生活を理解している。	人生100年時代を見通して、具体的に課題を見つけて思考を深めることができる。	高齢者の自立支援について考え、協力・協働するための具体的な考えが持てる。
第5章 共に生き、共に支える	共生社会の重要性や社会福祉の理念や内容について必要な知識を身につけている。	共生社会を実現するために何ができるかを考え、工夫することができる。	社会の一員としての自覚を持ち、ボランティア活動など主体的に行動しようとする。
第6章 食生活をつくる	栄養、食品、調理に関する基礎的な知識を身につける。食事と健康とのかかわりや、日本の食文化への理解を持っている。	健康な食生活を営む上で、食の安全性や環境について関心を深めることができる。	食生活と健康の関わりを考え、食生活の改善・向上に努めようとする。また、実習や実験に積極的に取り組もうとする。
第7章 衣生活をつくる	被服の機能を理解し、被服製作を通して基礎的な知識と技術を身につけられる。	健康と安全、資源や環境の持続性に配慮した衣生活について考え、工夫ができる。	衣生活に関心を持ち、結果的に全ての人が楽しめる衣生活を考え、行動することができる。
第8章 住生活をつくる	住居に関する基本的な知識を身につけ、科学的な理解を基に住居を見る目が持てる。	住環境や住生活の課題を挙げることができ、その解決策を構想し、表現することができる。	生涯を見通して住生活に関心を持ち、安全で快適な住生活を創造しようとする。
第9章 経済生活を営む	消費者の権利と責任を自覚し、消費者として意思決定や契約の重要性について理解し、自立した消費者になるための必要な知識を身につけている。	自立した消費者として、生活情報を収集して判断し、考察することができる。消費行動における課題を解決する力を身につけている。	消費行動や意思決定について、主体的に取り組むことができる。持続可能な消費者市民社会の実現に向けて考え、行動しようとする。
第10章 持続可能な生活を営む	持続可能な社会を構築するための消費や生活について知識をもち、理解している。	持続可能な社会の実現にむけて、地球全体の問題や課題を見つけ、生涯を通して解決策を考え行動することができる。	毎日の生活を持続可能なものにするために、一人ひとりの力が世界の問題解決につながることを理解し、行動する。
第11章 これからの生活を創造する	生涯の生活設計に必要な知識を身につけ、具体的な生活設計を立てることができる。	自己実現を目指して生活設計を考えてまとめ、発表することができる。	自己の生活設計に関心を持ち、目標達成のために必要な行動は何かを考え、実践できる。
1年間の評価は、1学期・2学期・3学期の年間を通じて、授業や実習の態度を重視し、知識・技能及び思考・判断・表現などを考慮した上で、総合的に判断して決定します。			

3. 学習の計画と評価の観点

学期	月	学習内容	学習のねらい	評価の観点			審査範囲
				知・技	思・判・表	主	
1 学期	4	第1章 生涯を見通す	家庭科の学習が、家族・社会との共生、生活の自立、生活の創造につながることを理解し、学習意欲を高める。生涯を通して、自己の生活設計を考えることができる。よりよい家庭生活を実現するために、家族に関わる法律や社会制度について知る。	○	○	○	1 学期 期末 審査
	5	第2章 人生をつくる		○	○	○	
	5	第5章 共に生き、共に支える	生涯を通じた福祉や社会的支援の必要性を知る。社会保障制度の理念と内容を理解する。	○	○	○	
	6	第7章 衣生活をつくる	被服の様々な役割を知る。被服の材料や性能、加工について科学的に理解する。生涯を通じて健康で安全な衣生活が営める工夫をする。被服製作を通じて基礎的な縫い方や技術を身につける。	○	○	○	
	7	ホームプロジェクトの 取り組み	生活課題を発見する視点やその課題を解決するための手立てについて、理解を深める。	○	○	○	
2 学期	8	第3章 子どもと共に育つ	命に対する責任を持ち生殖に関する健康について知る。子どもの能力や心身の発達について理解し、子どもが育つ環境を整えることを理解する。児童福祉の理念を理解し、子育て支援の現状を学ぶ。	○	○	○	2 学期 期末 審査
	9			○	○	○	
	10	第6章 食生活をつくる	生涯を健康に過ごすために食生活の課題、食生活を取り巻く環境の変化などを理解する。食品の栄養や調理上の性質を科学的に理解する。生涯を通じて健康で安全な食生活が営める工夫をする。日本各地及び世界の食文化に関心を持ち、私たちの食生活への影響に気づく。	○	○	○	
	11		食品の栄養や調理上の性質を科学的に理解する。生涯を通じて健康で安全な食生活が営める工夫をする。日本各地及び世界の食文化に関心を持ち、私たちの食生活への影響に気づく。	○	○	○	
	12	第9章 経済生活を営む	自立した責任ある消費者として、意思決定の重要性と情報の活用について理解する。大きく変化する世界経済の中で、家計と地域社会・国民経済・国際経済のつながりを理解し、自分の家計をマネジメントする力を身につける。消費生活と環境の関りを理解して、持続可能な生活ができるように考えて行動ができる。	○	○	○	
3 学期	1	第8章 住生活をつくる	生涯を見通した住生活について考え、将来の自立に向けて生活拠点となる住居の機能や住要求の変化を知る。防災や日照、換気などに関する環境性能について理解し、快適で健康かつ安全な生活を行う条件を知る。持続可能な住生活を目指し、地域コミュニティづくりの担い手となることの重要性を理解することができる。	○	○	○	3 学期 期末 審査
	2	第4章 超高齢社会を共に生きる	高齢者の心身の変化や生き方について理解を深める。高齢者に関する福祉について学び、高齢者を支える制度と課題を考える。	○	○	○	
		第10章 持続可能な生活を営む	今までの学習を踏まえて、一人の主体者として、社会全体をよりよい方向へ動かすことを考えられる。	○	○	○	
	3	第11章 これからの生活を創造する	自己実現のため、各ライフステージの課題や生活資源、リスク管理などについて、これまでの学習を振り返りながら卒業後の生活設計ができる。	○	○	○	